



コープぐんま70周年記念誌

未来へつなごう

「ともに」のちからで





コープぐんま70周年記念誌

ごあいさつ



生活協同組合コープぐんま
理事長

大貫 晴雄

生活協同組合コープぐんまは、2026年4月23日をもちまして、創立70周年を迎えることができました。長きにわたり、群馬県の地で組合員同志の助け合いの組織として活動が続けられたことは、ご支援をいただいている組合員の皆さま、お取引先・生産者の皆さま、そして全国生協の皆さま、役職員の皆さまのご尽力によるものであると心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

コープぐんまの前身である「桐生中央消費生協」は、1956年4月23日に設立されました。桐生の地で自分たちの生活を守るために多くの市民が力を合わせて、御用聞きによるリヤカーでの配達が始まりと聞いております。1976年には名称を群馬県民生協へ変更し、1984年に北毛エリア、西毛エリアで生協運動を展開していた北部県民生協と西部市民生協が群馬県民生協と組織合同をすることで活動エリアを群馬県全域に広めてまいりました。1992年には群馬県中央エリアで活動していた前橋市民生協と組織合同し、コープぐんまへと名称が変更されました。そして2005年には高崎市民生協と東毛生協の2つの生協を迎え入れました。こうして県内6つの生協が組織合同したことで、組合員36万世帯を超える組織に成長することができました。

この70年は決して平坦な道のりではなく、多くの店舗の閉店などの痛みも組合員そして職員と共に乗り越え、健全な経営を続ける中で2013年には累積の赤字も解消することができました。これも組合員の皆さまに支えていただいているおかげであると感謝申し上げます。

コープぐんまの発展に関わっていただいた皆さまに改めて感謝申し上げるとともに、70周年を迎えられたことを、組合員の皆さまと共に喜び合い、今後100年に向けた新たなスタートとなる年になればと願っております。

世界各地では、紛争の激化、自然災害の発生、そして日本では、少子高齢化の進行、物価高などの問題が山積し、組合員の暮らしを取巻く環境は益々厳しさを増しています。こうした状況の中、組合員同士による助け合いの組織である生活協同組合だからこそ、出来ることがたくさんあるのだと思います。

現在コープぐんまは群馬県と全市町村との間で災害時協定、見守り協定（包括支援協定）を締結しています。群馬県で暮らす方々のお役に立ち、地域貢献を果たし、コープぐんまがあって良かったと皆さまに言っていただけるような温かい組織を目指してまいります。

現在コープぐんまは1都7県の6つの生協が出資し加盟するコープデリ連合会に参加しています。1986年に北関東3県10生協の連帯によって日本初となる県域を越えた事業連帯組織として「生活協同組合連合会北関東協同センター」が誕生しました。これが、コープネット事業連合（現、コープデリ連合会）の設立へとつながる大きな舵取りとなりました。そして、コープネット事業連合に加盟したことにより、コープぐんまの経営は大きく改善が進み組合員への貢献度も高くなりました。

今後も関東・信越のコープデリグループの一員として「食べるしあわせ、自分らしい暮らし」「ともに」の力で、笑顔の明日を」をビジョンに掲げ、組合員の皆さまの毎日の暮らしを支える生活基盤となるよう進めてまいります。

コープぐんまは、これからも組合員の想いを大切に、生産者・お取引先、行政や諸団体と協力しながら、豊かで暮らしやすい地域共生社会の構築の一端を担い、地域社会の発展に貢献することを目指して、さまざまな事業・活動を更に発展させてまいります。

70年に亘るご協力への感謝とともに、皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

目次 CONTENTS

ごあいさつ	3
目次	4
祝辞	5
寄稿	11
コープの理念	14
コープぐんま 70 年のあゆみ	15
職員座談会	24
組合員座談会	28
70 周年のコープぐんまへ	32
生協とともに	33
コープぐんまの取り組み	45
データで見るコープぐんま	50
コープぐんまの広報誌	52
コープぐんまを支える人々	53
編集後記	84



祝辞



群馬県知事

山本 一太

生活協同組合コープぐんまが設立70周年という大きな節目を迎えられ、併せて記念誌を発行されますこと、心よりお祝い申し上げます。

貴組合は、昭和31年4月の創立以来、食料品や生活用品等の供給事業をはじめ、共済事業、福祉事業など、県民の暮らしに密着した多様な活動を展開されてこられました。これらの事業を通じて、地域社会の生活文化の向上に大きく寄与されてきたことに、深く敬意を表します。

また災害時における応急生活物資供給協定や、地域見守り活動協定を県及び県内多くの市町村と締結するなど、非常時にも安心を届ける体制づくりに尽力されていることは、県民にとって大きな心の支えとなっております。こうした貴組合の長年にわたる御尽力に対し、群馬県民を代表して感謝申し上げます。

私が知事に就任して以来、群馬県では「県民幸福度の向上」を最大のミッションとして掲げ、情報発信の強化、トップセールスによる企業誘致、子育て圧倒的No.1の実現など、様々な施策に取り組んでおります。

特に、クリエイティブの発信源を掲げ、全国に先駆けて取り組んできたデジタルクリエイティブ人材の育成では、アルメニア発祥のTUMOセンターを、昨年7月、アジアで初めて、TUMO Gunmaとして高崎市のGメッセにオープンいたしました。こうした取り組みは国内外から高く評価され、群馬県の存在感は着実に高まっております。

一方で、世界に目を向けますと、軍事的な緊張や紛争、地球温暖化をはじめとする気候変動、国際的な経済摩擦など、私たちの暮らしに影響を及ぼす課題が数多く存在しています。国内においても、物価高騰、少子高齢化、自然災害の頻発化・甚大化など生活を取り巻く環境は厳しさを増しております。

このような時代においては、地域に根ざした活動を継続しながらも、広い視野を持って社会の変化に柔軟に対応していくことが求められます。

生活協同組合の持つ総合力とネットワークを活かし、地域のつながりとコミュニケーションを大切にしながら、県民の暮らしの安定と向上に、今後とも一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、生活協同組合コープぐんまのさらなる御発展と、組合員の皆様の御健勝と御多幸を心より祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

祝辞



桐生市長

荒木 恵司

生活協同組合コープぐんま様が創立70周年という輝かしい節目を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、ここに記念誌が刊行されますことは、誠に意義深いものがあり、重ねてお慶び申し上げます。

貴組合におかれましては、日頃より、組合員一人ひとりの願いを実現するため、多彩なサービスを提供されながら、食の安全性確保や、子育て・食育支援、環境に配慮した商品開発など、地域の課題解決に向けた様々な取り組みを展開されておりますことに、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

また、桐生市との関わりにおきましても、平成7年12月に県内の市町村で初めて「災害救助に必要な物資の供給に関する協定」を締結したほか、平成25年2月には、「高齢者等見守り活動に関する協定書」を締結し、高齢者の方々が安心して生活できる地域づくりに貢献されるなど、安全で安心して暮らせるまちづくりに多大な貢献をいただいております。重ねて御礼を申し上げます。

さて、我が国の経済は、高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、前向きな動きが見られる一方で、賃金の上昇は物価上昇においておらず、個人消費は力強さを欠いており、地域事業者にとって大変厳しい経営環境に直面しております。

桐生市におきましては、本市の恵まれた地域資源や人材を最大限に生かしながら、活力あふれるまち桐生の実現を進め、本市の最重要課題である人口減少問題に対応すべく、様々な事業を実施していくことで、持続可能な桐生ならではの地方創生につなげてまいります。

今後も、関係各所との緊密な連携を図りながら、市民生活の更なる向上を目指し、市政運営に全力を注いでまいりたいと考えておりますので、皆様には、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、生活協同組合コープぐんま様が創立70周年を契機に、更なる飛躍を遂げられますとともに、組合員の皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、祝辞といたします。

祝辞



みどり市長

須藤 昭男

コープぐんま様が創立70周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。また、長年にわたり組合員の皆様の暮らしを支えるとともに、地域社会の発展にも大きく貢献してこられたご功績に、深く敬意を表します。

コープぐんま様が掲げる理念「CO-OP ともにはぐくむくらしと未来」に込められた、「一人ひとりが手をとりあい、くらしの願いを実現する」「ものと心の豊かさが調和し、安心して暮らせるまちづくりに貢献する」「人と自然が共生する社会と平和な未来を追求する」という思いは、みどり市の政策とも深く響き合うものです。

人と暮らしに寄り添うコープぐんま様の活動は、こども食堂や福祉団体等への食品の寄附やフードドライブの実施、規格外農産品の取扱いなどによるフードロス削減、また、各種募金活動や被災地への職員派遣など、多岐にわたります。地域とともに力を寄せ合い「誰一人取り残さない社会」の実現を目指すその姿勢は、SDGs未来都市に選定され、未来のこども達の笑顔のために、環境に配慮した持続可能なまちを目指す本市の取り組みとも相まり、市民生活の安心と持続可能な地域社会に大きく寄与されています。

また、本市との相互協力では、災害時の被災市民への応急生活物資の供給や輸送、ボランティア活動等のご協力をいただく「災害時における応急生活物資供給等に関する協定」を2009年から締結しています。さらに2025年には、フードバンクみどりへの多大なる食材提供をいただきましたことに心より感謝申し上げますとともに、こうした協力体制を大変心強くも感じております。そしてこれからも、様々な分野で相互連携を図れるものと期待するものです。

70年の歩みを通じて培われたコープぐんま様の地域への信頼と絆は、今後も市民の安心と豊かな暮らしを支える大きな力になるものと確信しております。本市といたしましても、市民の幸福と地域の持続的な発展に向けて、歩みを共に力を尽くしてまいります。

結びに、コープぐんま様の更なる未来への飛躍とチャレンジにご期待申し上げますとともに、関係各位のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、祝辞といたします。

祝辞



日本生活協同組合連合会 代表理事 会長

新井 ちとせ

生活協同組合コープぐんまの創立70周年にあたり、全国の生協の仲間とともに心よりお祝い申し上げます。創立から、これまで多くの困難の中で歴史を積み重ねてこられた皆様のご活動に対し心より敬意を表します。

貴生協におかれましては、70年という歴史の中で、宅配、店舗、移動店舗、共済、福祉などの事業展開と、環境、平和、防災、復興・災害支援活動など幅広い活動に取り組んでこられました。

また、行政や関係諸団体とともに、SDGsの掲げる目標や地域社会の課題に向き合い、組合員の暮らしに貢献されてきました。そして「ビジョン2035実現にむけた5つの成長方針」のもと、2024度には、総事業高346億円、組合員数が35万人を超える事業組織へと発展されました。

こうした皆様の多くの活動により、生協・協同組合への期待は、ますます高まっています。

全国の生協においても、2030年ビジョンの「つながる力」を大切にし、行政や社会福祉協議会、他の協同組合など、地域の皆様と連携・協力しながら、様々な活動や支援に取り組んでいます。

今後、少子高齢化、人口減少が急速に進み、貧困や格差など、ますます地域の課題は多様化し、深刻化していきます。組合員のくらしを守る私たち生協は、地域社会の課題のひとつひとつに向き合い、人と人とのつながりを大切に、生協の大きな強みである組合員のもと、SDGsの「誰一人取り残さない」取り組みを、皆様と一緒に連携し進めていきたいと存じます。

70周年を迎え、これからも、貴生協が組合員の皆様と共に力を出し合い、よりよい地域の未来に向けてますます力強く発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



日本コープ共済生活協同組合連合会 代表理事 理事長

笹川 博子

生活協同組合コープぐんま様が創立70周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。コープ共済連を代表し、謹んでご祝意を申し上げますとともに、長年にわたり事業・活動の発展にご尽力された役職員の皆様に、深甚なる敬意を表します。

貴生協におかれましては、組合員の皆様の豊かなくらしの実現に向けて、常に誠実にご要望やご期待に応じてこられました。その結果、2024年度末には組合員数が35万人を超え、群馬県内の約3割の世帯が加入されるなど、地域における存在感を一層高めておられます。まさに、県民のくらしを支える中核的な存在として、地域社会に欠かせない役割を果たしておられることに、深く感謝申し上げます。

近年、自然災害の頻発や感染症の拡大、物価高騰など、組合員のくらしを取り巻く環境は大きく変化し、不安も高まっております。そのような中、貴生協は「私らしいくらしづくりの応援」を掲げ、日々の生活を支える多様な活動を展開されております。これらの取り組みを通じて、群馬県により豊かなくらしの文化が根付くことを目指されていることに、改めて敬意を表します。

保障分野のコープ商品として1984年に誕生したCO・OP共済は、組合員のくらしを守りたいという職員の皆様の想いに支えられ、貴生協において13万人*を超える組合員どうしの助け合いの輪に広がりました。CO・OP共済は、組合員どうしの「たすけあい」の力によって生まれ、より良いくらしの実現に貢献することを使命としております。2030年ビジョンでは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献も掲げており、「たすけあいの心」を広げることが、事業の発展のみならず、地域社会における共助の輪を広げる原動力になると確信しております。これまでの貴生協のCO・OP共済推進の取り組みに心より感謝申し上げますとともに、今後も貴生協と力を合わせ、組合員や地域社会へのさらなる貢献を進めてまいりたいと考えております。

貴生協が今後も、食とくらしの安全・安心、平和で住みよい豊かなまちづくり、そして持続可能な社会の実現に向けて、積極的な役割を果たされることを心より期待申し上げますとともに、貴生協ならびに組合員の皆様の未来が、より一層価値あるものとなりますようご祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

*2025年8月度コープぐんまCO・OP共済元受・受託共済の保有人数合計

祝辞



コープデリ生活協同組合連合会 代表理事 理事長

熊崎 伸

生活協同組合コープぐんまが創立70周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。戦後に誕生し、1970年代以降本格的に全国に広がった地域生協は、時を経て組織合同による飛躍的な向上をはかるため、連帯の輪を広げてきました。その一つが、1986年にコープぐんまの前身である群馬県民生協・前橋市民生協が参画し、北関東3県10生協によって設立された「生活協同組合連合会北関東協同センター」です。これは日本初となる県域を越えた事業連帯組織であり、共同購入事業を軸として大きな成果を生み出しました。その実践は、後のリージョナル連帯づくりの道を切り開くものとなり、東関東5県の協同連帯、そしてコープネット事業連合、現在のコープデリ連合会へと続いています。社会環境が刻々と変化する中でもさまざまな共通基盤の整備を進め、コープデリグループ全体で着実に前進できたのは、皆さまとの信頼と共有によるものです。あらためて深く感謝申し上げます。

世界各地での紛争の激化、地球温暖化の進行と自然災害の発生、物価高など、いま私たちのくらしを取り巻く環境は厳しさを増しています。このような時代だからこそ、助け合いの組織である生協には大きな期待が寄せられています。創立以来、組合員の声を役員全員でしっかり受け止め、一人ひとりのくらしや願いに想いを馳せ、寄り添ってきたコープぐんまの事業と活動は、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けたSDGsの取り組みと重なるものです。コープデリグループSDGs重点課題の達成に向けたスローガン「未来へつなごう」のもと、生協の特徴と強みを生かし、事業と活動の総合力で、持続可能な社会の実現に向けてともに尽力してまいりたいと考えています。

私たちコープデリグループは、同じ理念“CO-OPともに はぐくむくらしと未来”、ビジョン“食べるしあわせ、自分らしいくらし 「ともに」の力で、笑顔の明日を”を掲げる仲間です。さらに連帯を推進しながら、地域社会や組合員・消費者の願いを真摯に受け止め、多くの課題解決に向けて、ともに力を合わせ歩んでいきましょう。

群馬県は、個人的にも大学時代を過ごした思い出深い地でもあります。コープぐんまがこれからも組合員と地域に寄り添い、組合員一人ひとりの自分らしいくらしを実現する存在としてますます発展されますことを心より祈念し、お祝いの言葉といたします。

寄稿



前日本生活協同組合連合会 会長

前コープデリ
生活協同組合連合会 理事長

土屋 敏夫

生活協同組合コープぐんまの創立70周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。

戦後復興が進められていた時期に、群馬に消費者の暮らしを守る生協が組織され、その後の高度成長、オイルショック、バブル崩壊、競争激化など、さまざまな環境変化に適応し、幾多の困難を乗り越えてこられた多くの方のご尽力に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

私は2006年から1期であります。コープぐんまの理事を務めさせていただきました。デフレと厳しい競争環境などから、コープぐんまの経営・財務状況は悪化し、経営再建に向けた構造改革が急務でした。厳しい経営対策が最優先課題である中でも、県内連帯に向けた努力も進め、高崎市民生協等への支援・再建の取り組みを進めてきました。また、自らの経営努力と身を切る改革を進めると同時に、関東エリアの事業連合であるコープネットに積極的に結集し、連携・連帯を進めることで改革を加速させ、未来を切り開き、組合員と向き合いながら事業と組織を強化してきました。

自助・自立の不屈の努力と協同連帯の推進は、現在のコープぐんまとコープデリ連合会の理念を力強く支えるものとなり、また、その決断と実績は、多くの仲間を励ますものとなりました。

今まさに、暮らしと人権が脅かされ、平和が危機に直面し、高齢化と人口減少により地域社会が深刻な問題を抱える中、コープぐんまへの社会からの期待も一段と高まっています。

創立70周年を迎え、今後ともよりよい暮らしと地域社会づくりのために、力強く発展されますことを心より祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



元コープぐんま 理事長

中嶋 源治

コープぐんま 70周年おめでとうございます。

今からおおよそ40年程前に、桐生中央消費生協と北部県民生協、西部市民生協の三生協が合併しコープぐんまとなりました。その一つである西部市民生協は、前橋市民生協の支援を受けて、昭和52年に藤岡市の地域女性組織が中心となって多野藤岡市民生協として発足しました。

専従者は前橋市民生協職員だった藤岡在中の中嶋でした。北海道のよつば牛乳を中心に共同購入を広げ、甘楽富岡、碓氷安中、高崎に組合員を集め群馬西部市民生協としました。西部市民生協時代は共同購入中心でしたが、合併直前に生鮮の専門店であるみどり店をオープン致しました。

私は前橋市民生協から西部市民生協の立ち上げに関わり、3生協の合併、北関東協同センターの発足、コープネット事業連合（現在のコープデリ連合会）の発足等々に参加してコープぐんまの常務理事、専務理事、理事長、群馬県生協連、群馬県消費者団体連絡会の会長等を務めさせていただきました。コープぐんまの組合員の皆様と全専従者の皆様のご協力の賜物と御礼と感謝を申し上げご報告と致します。

寄稿



元コープぐんま 理事長

梅澤 義夫

コープぐんま創立70周年おめでとうございます。

2025年は戦後80年、2026年がコープぐんま70周年ということで節目の年となります。平和を願いつつコープぐんまの更なる発展(くらしを豊かに)を期待しています。

さて、私が入協したのは東毛エリアを中心に活動していた桐生中央消費生活協同組合が、活動を全県に広げることを目的に群馬県民生協と名称変更した翌年、新卒第1期生としてでした。当時の群馬県民生協は店舗型生協で共同購入事業は展開しておらず、各地域への店舗出店をすすめていました。そんな中コープかながわの支援を受けてミニコープ(当時はKM店)を全県に展開していきました。一方で県内に共同購入を中心にした生協が数多く活動していました。

数多く活動していた生協の中で北部県民生協、西部市民生協と組織合同し、共同購入の事業にも注力するようになりました。各県内生協とも連帯を進める中、とちぎコープといばらきコープ管内生協とともに共同購入の物流施設である北関東協同センターを立ち上げ、一層共同購入事業に力を注ぎました。更にコープネット事業連合にも加盟し連帯と拠点生協づくりをすすめ、最終的に高崎市民生協と東毛生協との組織合同で拠点生協づくりを終了しました。

更にコープぐんまは経営改革をすすめ不採算店の閉店や大型店の出店、共同購入センターの再構築等を進めました。

昨今組合員の暮らしを取り巻く環境は厳しい状況です。また、流通環境も過激になっております。そのような中で組合員の暮らしに貢献し続けコープぐんまの改革と発展を期待しています。



元コープぐんま 常務理事

赤石 丈夫

コープぐんま創立70周年おめでとうございます。

北部県民生協は渋川市に本部を置き、群馬県北部地域を拠点とした生協として1976年に設立しました。群馬大学生協理事会で北部地域に生協を作るのが望ましいという理事会決定を行い、当時の群馬大学生協専務理事であった赤石をトップに取り組みことになりました。初年度と2年目は赤字でのスタートと厳しい事業状況でしたが、中之条町や沼田市で取り組みを進め、第一期から第五期までの中期計画を策定し、地域の組合員の協力を得ながら共同購入の拡大、3店舗出店など着実に計画を達成することができました。

その後、群馬県の生協活動をすすめるため、県内主要生協の合併が議論されて群馬県民生協、北部県民生協、西部市民生協が合併しました。この合併までにさまざまな課題がありましたが、群馬県生協連や日本生協連、それぞれの生協職員や組合員の支援を受けて事業赤字から再建活動をすすめ、店舗の大きな赤字事業を共同購入事業の黒字でカバーをし、画期的に事業再建が実現できました。当時の共同購入組合員の期待と協力、また共同購入職員の頑張りに感謝しています。

さらに北関東の生協が協力し「北関東協同センター」が稼働し、連帯がすすみました。残念なのは県内地域生協の総統合が実現できなかったことです。

こうして群馬県の拠点生協は実現し、群馬県と日本の生協運動の発展に今も貢献し続けています。

これからも群馬県における更なる生協発展に向けてコープぐんまが地域に必要とされる生協となることを心より祈念し、お祝いの言葉といたします。



元コープぐんま 常務理事

小林 香

コープぐんま創立70周年おめでとうございます。

群馬大学生協に3年勤務後、前橋市民生協に移籍した1974年は、中東紛争に伴うオイルショックの真只中、洗剤や紙製品を始め生活物資の買い占め、高騰が消費者を苦しめていた時期でした。また、高度経済成長の負の側面である健康被害や公害が相次ぐ中、生協への期待が高まっていた時期でもありました。

当時の前橋市民生協は2店舗と共同購入を展開していました。共同購入は月3回、班単位で行われ、班長さんがB4半紙1枚・40品目程度の注文書を回覧して集計、電話でセンターに注文、事前集金をして配達時に精算していました。また、牛乳代金は毎月班長さんが集金し、17か所の会場に出資金と共に持参する方式でした。

そうした中で広瀬団地への店舗出店では組合員が一体となって市と交渉して実現したり、エリア内17会場での納涼祭、大勢が参加したおせち料理の試食会など、手作りの組合員活動に支えられた消費者運動が進められていたものです。

やがて、無添加ハムや全国初の完熟トマト等の独自開発商品、日本生協連のコープ商品の拡充等とともに注文方式が毎週注文・翌週配達へと移行、県内生協が連携したチラシと商品セットセンターの設置、OCR注文方式の導入、北関東協同センターによる商品セットが実現し、今日の宅配方式の原型が作られました。

県内生協の共同仕入れ活動や合併、県域を越えた事業連合（北関東、コープネット）を経て、かつてからは想像もできない程の規模と影響力を持ったコープぐんまが、組合員の願いを実現する為、更に力強く前進されることを期待しています。



株式会社 花のにしはら
代表取締役

増子 惣一

コープぐんま様「創立70周年」おめでとうございます。

私なりに“コープ虹の会”に係る想いでを紐解いてみますと、脳裏に焼き付いているのは会員・役員及び担当者との釣り大会に始まりゴルフ大会、そして県内のコープをめぐる旅行であります。

立場の異なる仲間の参加ということで親睦一色の楽しいもので、まさしく世代間を超えた交流のなかから、学ぶことも多く素晴らしい出会いの場がありました。その中でも特筆すべきは、虹の会会員が一つとなってお客様との交流を兼ねて試食会や販売会などを行う企画は、お客様の生の声を聞くことができ、私達も楽しむことができました。もちろんのこと忘年会や新年会等の年中行事を介してコープぐんまの皆様方とは何でも言い合える信頼関係が構築できていったと思います。

“コープ虹の会”のことを語るに欠かせない方として、初代会長であった根本運送の根本会長を忘れることはできません。豪快でありながら繊細な面もお持ちの素晴らしい会長さんであり、どんな場合においても会員とコープぐんま様との橋渡しを気持ちよく引き受け奔走していただきましたことを、今でも思い出します。

最後になりますが、県内最大の消費者団体であります“コープぐんま様”が更なる歴史を積み重ね発展していくことを祈念いたしております。



理念

CO-OP

ともに はぐくむ 暮らしと未来

ビジョン

食べるしあわせ、自分らしい暮らし
「ともに」の力で、笑顔の明日を^{あした}

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります

行動指針

組合員の暮らしと未来のために
組合員の立場に立って

安心と信頼

挑戦と学び

コミュニケーションと感謝

を大切にします。



コープぐんま70年のあゆみ

1956年に桐生中央消費生協として始まったコープぐんまは、組合員の皆さまと地域に根ざした活動を続けてきました。70年の歴史を主なできごととともに振り返り、そのあゆみをたどります。

コープぐんま 70年のあゆみ

1956年-1994年
昭和31年-平成6年

1956



桐生中央消費生協設立

設立当初は各家庭を巡回するご用聞き制度が中心で、薪・炭・麦・うどん粉などを取り扱っていました。

1976



北部県民生協の設立

桐生中央消費生協が群馬県民生協へ名称変更

共同購入OCR導入 (個人別注文書の発行)

手集計作業からコンピュータによる個人注文書の発行へと改善され、CO-OP商品を利用する仲間の輪がさらに大きく広がりました。

高崎市民生協設立

社会のできごと

● 日本が国際連合に加盟

● 「鉄腕アトム」放映開始

● セブンイレブン1号店開店

● ロッキード事件

● 日中平和友好条約締結

● 東北・上越新幹線開業

1956

1963

1974

1976

1978

1982

1960

● 60年安保闘争

● 桐生中央生協出張所を閉鎖

1970

● 大阪万博開催

● 第1回班長会議
● ご用聞き配達中止
● 全国生協大会で表彰される

1975

● 山陽新幹線開通

4生協による共同購入事業統一

群馬県民生協、前橋市民生協、西部市民生協、北部県民生協が協力して共同購入事業を統一しました。

1977

● 王貞治ホームラン世界記録達成

● 第1回全国生協組合員交流会

1980

● イラン・イラク戦争勃発

KM店(ミニコープ)出店

1983



売り場面積50坪のKM店(小型マーケットの略)の展開を開始しました。地域の組合員が出店の中心となって最大20店舗となりました。大型店舗が増えた影響もあり、2010年度までで営業を終了しました。

1970



前橋市民生協設立

前橋市民生協が設立されました。この頃から家庭班をつくっての共同購入利用に結集が進み、組合員も2万人にせまりました。

1975



西部市民生協の設立

1975年に西部市民生協が設立、1976年には北部県民生協が設立されました。県内各地に共同購入利用が広がり、CO-OP商品の開発が飛躍的に増えました。また、桐生中央消費生協は群馬県民生協へ名称を改めました。

1984



群馬県民生協・北部県民生協・西部市民生協合併

群馬県民生協、西部市民生協、北部県民生協の3生協が合併し、群馬県内全域をエリアとする新しい群馬県民生協が誕生しました。

物流センター稼働

1986



北関東協同センター設立

群馬県、栃木県、茨城県の3県にまたがる「北関東協同センター」が設立され、共同購入がより一層利用しやすくなりました。

東毛生協設立

- ワンステップ商品運動
- ミルクパック回収運動開始
- 東関東コープネットワーク連帯開始

- 消費税反対運動
- 前橋市民生協と事業提携

- 地区別総代会開始
- 中型店3店で発泡トレイとペットボトル回収開始
- コープネット店舗共同化開始

● グリコ・森永事件

● チェルノブイリ原発事故

● リクルート事件

● 東西ドイツ統一

● PKO協力法成立

● 関西国際空港開講

1984

1986

1988

1990

1992

1994

1985

● ブラザ合意

1987

● ブラックマンデー株価暴落

1989

● 消費税導入

1991

● ソ連崩壊・冷戦終結

1993

● ヨーロッパ連合(EU)発足

- 前橋市民生協との事業連帯活動開始
- 100品目値下げ運動
- 組合員再登録運動
- コープカード発行
- SM店POS化



被災地支援の取り組み

1993年 JA花巻市に冷害義援金131万円、578通の激励文を贈る

1993



● 特別養護老人ホームに車椅子贈呈 (組合員10万人達成記念)

組合員数が10万人に達したことを記念して、特別養護老人ホームへ「車椅子を贈る募金」に取り組みました。約169万円が組合員から寄せられ、15台の車椅子が3か所の特別養護老人ホームへ贈られました。

コープぐんま 70年のあゆみ

1995年-2007年
平成7年-平成19年

- 個人別配達スタート
- 全ての事業所でミルクパック回収義務化
- 中型店全店で発泡トレイとペットボトル回収開始
- フランス核実験への抗議文と世界法廷運動の署名に取り組む

1995



阪神淡路大震災への支援

大きな被害にあったコープこうべへ、組合員から寄せられた義援金1,450万円を贈り、物資供給活動の協力、職員9名の派遣などの支援を行いました。



平和の取り組み

戦後50年の節目の年には、平和コンサートや戦争資料展、平和文集発行など、平和への取り組みが行われ、平和行進には多くの組合員が参加し、核兵器廃絶をアピールしました。

- 班長会を中止し組合員のつどいに変更
- アフガンへの報復攻撃中止を求める要請文募集
- 共同購入冷凍冷蔵個人別セット開始
- 食品の安全行政を求める国会請願が臨時国会で採択

- 岩手花巻産直10周年企画
- 相馬ヶ原ヘリ旅団化反対署名
- 沼田市民の森にブナ苗木300本植樹

● 環境マネジメント・環境監査制度開始

社会のできごと

● 阪神・淡路大震災
地下鉄サリン事件

● アジア通貨危機

● 単一通貨ユーロ誕生

● アメリカ同時多発テロ

1995

1997

1999

2001

1996

● BSE問題拡大

- 生協創立40周年記念式典
- 消費税増税反対署名7万筆
- 地震災害における国民的保障制度を求める署名
- 暮らしのたすけあいの会設立総会・桐生、前橋で活動開始
- ミニコープ3店で発泡トレイとペットボトル回収開始



1996

リセロ宮子開店

伊勢崎市宮子町にコープぐんまでは初の大型店(450坪)がオープンしました。安心・安全低価格の願いをこめた愛称「リセロ」の名がつけられ「食」「住」を中心に豊富な品揃えと各種サービスを取り入れました。

1998

● 長野冬季五輪開催

- ステーション供給開始
- 機関誌を「ほっと」に統合
- 環境事業推進室新設

2000

● 介護保険制度開始

- 組合員15万人達成記念企画「みんなが選んだコープ商品」ベスト15品目の利用普及、2福祉施設に介護器具等寄贈
- 食品の安全行政を求める国会請願署名12万7千筆
- 県マイバッグキャンペーンに参加

被災地・海外支援の取り組み

1995年	ユニセフ「ベトナム指定募金」開始	2002年	宮城村生産者に義援金80万円と激励メッセージ贈る
1998年	集中豪雨被災者支援募金を実施(約154万円)	2004年	新潟水害支援、新潟中越地震支援を実施(義援金約780万円)
	震災被災者支援がんばるゾウ「一本のタオル運動」		
2001年	アフガン難民支援緊急ユニセフ募金を実施(約130万円)		



2007



◀理念

● コープネット共同購入システムが統一

コープネットグループの一員として、統一の「理念」とシンボルマークが決定しました。

- 地区別総代会でアメリカによるイラクへ軍事攻撃反対決議
- 環境マネジメント国際規格ISO14001認証取得
- コープカードの変更と利用高割戻しのポイント還元制度への切り換え
- 沼田市に沼田センター開設
- 高崎市にリセロ寺尾開店(石原店拡張移転)
- イラクへの自衛隊派遣に反対する理事会声明

● 総代会で高崎市民生協と東毛生協との組織合同可決

● CO・OP牛肉コロッケの偽装事件、組合員へお詫びと返金

● イラク戦争勃発

● 京都議定書発効

● 食品偽装問題が発覚

2003

2005

2007

2002

● 日韓W杯開催

2004

● EU拡大



2004

● コープぐんまフェスタ開催

全県1会場の生協まつり「コープぐんまフェスタ2004」がグリーンドーム前橋で開催されました。“ありがたいの気持ちを伝えたくて”をテーマに大物産展やイベントステージを実施し、25,000人もの入場者で賑わいました。

- 全農チキンフーズによる無薬飼料飼育産直若鶏偽装事件
- インターネット注文システム(eフレックス)開始
- 県マイバッグキャンペーン「ノーレジ袋デー」に取り組む
- 有事法制三法案に反対する要請署名
- ボランティアさんによるリーディングサービス本格稼働

2006

● 第1次安倍内閣発足

● 高崎市民生協・東毛生協・コープぐんま組織合同

● コープぐんま「理念・ビジョン」策定

2006



リセロ藤岡オープン

5番目のリセロ型店舗で、本格的なコープネット標準店舗としてオープンしました。コープぐんま初のショッピングセンターでの出店でもありました。

コープぐんま 70年のあゆみ

2008年-2018年
平成20年-平成30年

中国製冷凍餃子事件が発生、品質管理・危機管理の強化と「安心・安全」の再構築、信頼回復に取り組む

2008

商品への原産国・原料原産地表記やホームページへの公開、重要なお申し出はコープネット事業連合を通じて他の会員生協へ共有するなど、安全性の確保と信頼回復に向けて取り組みました。



- コープデリ宅配「地域ステーション」が稼働開始
- コープ東久方店、コープ寺尾店でレジ袋が有料化



コープ東久方店



コープ寺尾店

- ハッピーミルクプロジェクト開始
- お米育ち豚プロジェクト開始

- 高崎センターと中居センターを統合し、高崎市八幡町に高崎センターを新設
- ミニコープ6店舗が閉店

東前橋センターと南前橋センターを統合し、前橋市五代町に前橋センターを新設

- 店舗でペットボトルキャップの回収が開始
- 夕食宅配事業開始

- 佐渡トキ応援お米プロジェクト開始
- 美ら島応援もずくプロジェクト開始

社会のできごと

● リーマンショック

● 「はやぶさ」地球帰還

● 東京スカイツリー開業

2008

2010

2012

2009

● 民主党政権交代

- お米育ち豚の供給が開始
- 法人向け供給事業を開始

2011

● 東日本大震災発生

- 終身共済「ずっとあい」の取り扱いが開始



東日本大震災における被災者・被災地支援

2011



事業

放射性物質汚染による風評被害の拡大が懸念されるなか、被災地の取引先・生産者を支援する取り組みを進めました。

被災地支援

義援金は約3,200万円(2011年3月11日～6月20日)

復興支援募金は約404万円(2011年6月21日～2012年3月16日)

東北3県へ物資・人的支援活動を行い、復興支援募金の一部(約90万円)を群馬県社会福祉協議会に寄付、組合員による復興支援バザーなどさまざまな取り組みを行いました。

2013

- 富士山が世界文化遺産に登録

● 福島の子どもを招き
3日間の保養プロジェクトを
開始(～2021年)



2015

● CO・OP 共済が契約10万件達成

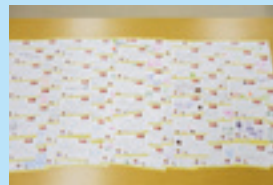
地域・組合員から信頼される保障事業を目指しました。
JCSI調査^{*}における保険・共済分野で3年連続「顧客満足度1位」に選ばれました。
※顧客満足度調査

2015

- 安全保障関連法成立
- コープネット事業連合と会員生協の理事長連名で安保法制関連法案に反対する声明を発表

被災地支援の取り組み

- 2014年 関東甲信大雪被害に募金と生産者支援を実施(約124万円、職員2名を派遣)
広島土砂災害緊急募金を実施(約154万円)
エボラ出血熱緊急募金を実施(約67万円)
- 2016年 熊本地震地震緊急募金を実施(約1,778万円)



熊本の子育て世代へ
メッセージを送りました。

- 2017年 九州北部豪雨災害緊急支援募金を実施(約261万円)
- 2018年 西日本大雨災害緊急支援募金を実施(約1,112万円)
北海道胆振東部地震緊急支援募金を実施(約682万円)

2016



- 消費税増税に伴い日本生協連・コープネット事業連合とともにくらし応援の品揃えの強化をすすめました。
- コープネットグループ「ビジョン2025」、第1期中期計画を策定

● 桐生市で福祉事業を開始、「コープケアプランあいおい」と「コープヘルパーステーションあいおい」を開設

安心して地域に住み続け、利用者の日常に寄り添い豊かにすることを旨として事業を開始しました。

● 60周年で組合員数30万人突破

- 群馬県・沼田市と「森林整備に関する協定」を締結
- 「コープデリでんき」の供給開始、電気事業へ参入

● 消費税8%へ引き上げ

2014

● 熊本地震発生
● 「協同組合の思想と実践」が
ユネスコ無形文化遺産に登録

2016

● 築地市場が豊洲へ移転

2018

2017

- アメリカ大統領にトランプ氏就任
- コープネット事業連合がコープデリ生活協同組合連合会に名称変更

コープぐんま 70年のあゆみ

2019年-2026年
平成31年-令和8年



はじめてばこプロジェクト (上毛新聞社主催)に特別協賛

これからたくさんの「はじめて」に出会う赤ちゃんとご家族へ、童謡カードなどのお祝いの品を特製の箱に詰めてお届けしています。

2019

● 台風19号でコープながの本部・配送センターが浸水のため支援を実施

● サービス付き高齢者向け住宅「虹の丘あいおい」とコープケアあいおいデイサービスが桐生本部敷地内にオープン

社会のできごと

● 「令和」に改元

2019



コロナ禍の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大の中、大学生や感染世帯へのフードパントリー等の支援を実施しました。また「シトラスリボン」運動を展開し、感染者への差別のない、支え合いの地域づくりに取り組みました。



● ブロック委員公募制開始
● 学生総合共済の取り扱いが開始

● 東京五輪・パラリンピック開催

2021

2020

● 新型コロナウイルス感染拡大

● 館林市と協力しコロナウイルス自宅療養者へ生活必需品を配達



北毛保健生協



利根保健生協

2020

2022

● 成年年齢を18歳に引き下げ
● ロシアがウクライナに侵攻

● 高崎市にコープみさと店オープン



2022

コロナ禍で多忙を極める県内医療生協へ募金と飲料を届ける

組合員から寄せられた募金約975万円とコープぐんまの寄付を合わせて合計1,000万円を県内4つの医療生協に支援物資とともにお渡ししました。



東毛地区(邑楽町、大泉町、千代田町、板倉町)で移動店舗事業を開始

行政と協力をすすめながら45拠点でスタートしました。



2023

被災地支援の取り組み

- 2019年 台風15号被害金支援募金を実施(約863万円)
台風19号被害緊急支援募金を実施(約945万円)
- 2020年 7月豪雨災害支援募金を実施(約1,042万円)
- 2022年 ウクライナ緊急支援募金を実施(約2,500万円)
- 2023年 トルコ・シリア地震緊急支援募金を実施(約556万円)
- 2024年 令和6年能登半島地震緊急募金を実施(約2,716万円)
台湾東部沖地震緊急支援募金を実施(153万円)
令和6年能登半島地震及び能登豪雨災害緊急支援募金を実施(約1,017万円)
- 2025年 岩手県大船渡市山林火災支援募金を実施(約544万円)
ミャンマー地震緊急支援募金を実施(約354万円)
アフガニスタン地震緊急支援募金を実施(約37万円)

● コープぐんま奨学金制度がスタート

群馬県内に在住のひとり親・両親がいない家庭の高校生・高等専門学生に3年間毎月1万円の返済不要の奨学金をお渡ししています。

- 健康経営優良法人認定を取得
- プラチナくるみんプラス認定を取得
- 夏季一斉配達休業を実施



● 珠洲市へボランティア活動

石川県珠洲市で、群馬の郷土料理「焼きまんじゅう」「おっきりこみ」を提供し、仮設住宅にお住まいの皆さんと交流しました。

● Gメッセ群馬でコープぐんまフェスタを開催

● 侍ジャパンWBC優勝

● 大阪・関西万博開催

2023

2025

2024

● 能登半島地震発生

- 能登半島地震でコープいしかわ支援に職員を派遣
- 組合員35万人達成
- 「みんなのよみかせ絵本大賞」に参加し県内の保育園幼稚園へ新刊絵本を贈呈

● はじめてばこのお届けが2万人に到達



2024

2026

● コープぐんまが70周年を迎える



● ビジョン2035を策定

これまで積み重ねてきた取り組みを大切に、組合員と働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿の実現に向けて、力を合わせて取り組んでまいります。

ビジョン2035

食べるしあわせ、自分らしい暮らし
「ともに」の力で、笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協力の力が生み出す「ともに」の力で
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります



コープぐんまらしい
和やかな
座談会に
なりました。

2026年に70周年を迎えるコープぐんま。各業態で活躍されている6名の職員の皆さんにお集まりいただき、コープぐんまの歩みを振り返るとともに、未来に向けた展望を語っていただきました。

職員座談会

Staff Roundtable Discussion for the Future of Coop Gunma

あの日あの時の教訓、組合員の声に応える組織として

関根俊彦さん (以下、関根) 山口専務が入職された頃、コープぐんまはどのような組織でしたか？

山口真司さん (以下、山口) 私が入社して3年目で北関東協同センター※ができました。茨城、栃木、群馬3県の生協が協同して業務の効率化が進みました。その後連合会が立ち上がって全国に広がっていったので、協同運営の先駆けともいえる歴史的なできごとであったと記憶しています。

高田太一さん (以下、高田) 今、自分が入社3年目で配達を担当しています。僕からしたら山口専務は雲の上の存在です。

※北関東協同センター…全国初の事業連合

山口 私も初めに経験した仕事が地域担当で、一番の思い出に残っています。今でも出かけた先で、昔担当していた組合員さんの顔がふと浮かぶことがありますし、総代会などの場で、お世話になった方々に声をかけていただくこともあって、本当にありがたい気持ちになります。

高田 これまでのご経験の中で、特に大変だったできごとや、それをどのように乗り越えられたのかについてお聞きしたいです。

山口 そうですね、大変だったというか、これは失敗談なのですが…。25、6歳でチームリーダーを任せられたとき、当時は個人別配達がなくグループ配達だけでしたから、各グループの代表さんが集まって生協について意見を出しあう班長会があったんです。その時に

ある班長さんから個人宅に配達してほしいと言われてまして。当時は、先輩から「班で利用してもらって今の配達が成り立っている。」と教えていただいていたので、特に検討もせず断ってしまったんですよ。

金田ゆかりさん (以下、金田) それからどうなったのでしょうか。

山口 そうしたら、運営委員さんからすごく怒られまして。組合員さんがせっかく意見を言ってくれたのになぜ検討すると言えないのって。そのできごとから2、3年後、首都圏で手数料をいただいて個人宅に届けるシステムがはじまったんです。

高田 たまたまではなく、潜在的な需要があったわけですね。



1



2



3



4



5



6

1 山口 真司 さん / 役員 (専務理事) / 42年目

1984年入職。2022年に専務理事に就任し現在2期目。コープぐんまの経営において中核的な役割を果たしている。

2 金田 ゆかり さん / 共済部 / 10年目

2016年に入職。パート勤務を経て共済専任職に登用され、その後、総合職へとキャリアを重ねる。現在は共済部の推進リーダーを務めている。

3 関根 俊彦 さん / 管理部 (総務人事課) / 23年目

2003年入職。藤岡センター、高崎センターなど各地でキャリアを積み、現在は管理部総務人事課として、コープぐんまで働く人々を支える。

4 塚田 彩 さん / 店舗 (コープ宮子店) / 15年目

2011年入職。地域担当、本部とさまざまな業態を経験し、現在はコープ宮子店の副店長として店舗スタッフの教育や、お客様の要望に応えられる売り場づくりを担う。

5 高田 太一 さん / 宅配 (藤岡センター) / 3年目

2023年入職。組合員の方とのコミュニケーションを大切に、地域担当としてコープ商品を運ぶ宅配業務を担う。組合員活動にも積極的に参加している。

6 彦部 智子 さん / 福祉 (コープケアあいおい通所介護) / 3年目

2023年入職。前職で介護職を務めていた経験を活かし、コープケアあいおい通所介護の管理者として、利用者の方々が毎日笑って過ごせる介護施設を目指す。

山口 そう、あの時に個人別配達を実現していれば、我々コープぐんまが先駆けてできたんじゃないかともすごく反省しました。そのことがあって、組合員さんの声を大切にしなければならぬと今でも強く感じています。

だから、選ばれる信頼される店づくり

塚田彩さん (以下、塚田) 私はコープぐんま宮子店の副店長として、気さくに質問や意見を言ってもらえる雰囲気づくりには気を付けています。異動するたびに自分よりこれまでのお店を知っている職員やパートさんの意見をしっかり聞きながら、上司として仕事をするように心がけています。そういったいい雰囲気は組合員さんが見て伝わるので。

関根 店舗って今、競合がかなり出てきているじゃないですか。特に塚田さんのいる宮子店は大変だと思うんですが、推している部分や生協の魅力はありますか。

塚田 近隣の競合店にお客さんが流れてしまうのではとお店を挙げて対策に取り組んでいます。組合員さんに信頼してもらっているコープ商品の展開を強めたり、安全安心をアピールしたりだとか。ただ強みとしては、地域にすごく密着していることかなって。宮子店は30年クラスのお店なので、長く働いているパートさんは来店されるお客さんや組合員さん同士で仲が良くて。「別のスーパーに行ってみただけやっぱりコープがいいわ」というお客さんの声が実際のところ多かったですよね。価格だけではなく、そこで働く人を見てくださっている。お店に限らず宅配もそうだと思いますし、コー

プという名前も信頼されているんだなと競合の出店でより感じました。

人のために、社会のために、生協だからできること

高田 組合員さんとのできごとで印象に残っていることがあって。僕の好きなコープの商品が「伊平屋島産の太もずく」という宅配限定商品で。これは「美ら島応援もずくプロジェクト」という、沖縄伊平屋島の海をきれいにする活動への募金になる商品です。コープ商品ってご購入いただくことで地域貢献につながるものも多くて。

塚田 商品を通じて、環境や誰かのためになるところは生協の良さですよね。

高田 そうなんです。それで、ある組合

員さんにもずくをおすすめしたことがあって、最初は「主人があまりもずく好きじゃないんだよ」と言っていたんですけど、試しに買っていただいたんです。その翌週、「このもずくは食べられる。すごくおいしかった」って感想をいただけて。4つ入りの全部、旦那さんがひとり占めしちゃうくらい(笑)。それをきっかけにその組合員さんと仲良くなれたというできごとがありました。高額な商品じゃないからこそ試しやすいですし、おすすめしやすいコープ商品っていいなあって思います。



彦部 智子さん (以下、彦部) 素敵なエピソードですね。業態をまたいで実施されている社内インターンに行くとしたら、私は宅配に行ってみたいです。今担当しているのは福祉事業部なのですが、福祉とコープってかけ離れているイメージがあったんです。ところが研修に参加して話を聞いてみたら、宅配も「人のために」という部分が福祉とすごく近いなと感じて。

高田 うれしいです (笑)。人の役に立ちたいという軸で就職活動をしていたので。コープぐんまの説明会で、生協独自のプロジェクトを通して組合員さんだけでなく、日本中や世界中の人たちにお役立ちをしている、というお話を関根さんから聞きました。その理念に共感して入職を決めたんです。

関根 生協って、伝えれば共感してもらえる取り組みがたくさんありますから。一般企業でやろうと思ってなかなかできないような良い取り組みも多いので、就職説明会に来てくれた方に伝えるポイントとしていつも意識しています。

彦部 私が担当しているデイサービス業務ではご利用者さんが毎日笑って過ごせる、ということの一つの目標にしています。高齢者の方々が希望を持って最期まで生きられるような希望や楽しみのある介護施設をつくりたいと思っています。

金田 コープではないんですが、うちの祖母がデイサービスに通いだしてすごく明るくなったんですよ。デイサービスってあまり近い存在ではなかったんですけども、すごく身近に感じていますね。

彦部 金田さんの第一印象、すごく笑顔が素敵で。すぐに人と打ち解けられそうだなって、私もそんな雰囲気ほしいなって思いました。どんなことに配慮されているんですか。

金田 こう言ったらあれなんですけど、顔つきかもしれない(笑)。でも笑顔は絶対忘れないようにしています。宅配や福祉と違って毎週お会いする方ではないので、1回きりのお付き合いになってしまうかもしれません。だからこそ組合員さんが私と話をしてすごく楽しかったなと思ってもらえるように120%の対応を目指しています。

業態を超えて広がる、 助け合いの精神

高田 事例発表会や研修で他の業態の方とお話をしたときに、人とのかわりを大事にしていることや、生協ならではの寄り添う力が存分に発揮されていることはどの業態も共通している気がしました。組合員さんや周りの職員から支えられていると感じる機会が非常に多いです。

彦部 前職は介護事業のみの職場だったのですが、コープぐんまでは、福祉にあまり関わっていない方々の疑問を聞いたり、意見交換したりできるのはすごく貴重だと感じています。福祉そのものについて考えるきっかけにもなるので、転職してすごくよかったと思っています。

関根 情報交換できる場は多いかもしれませんがね。複数業態がある分、お互いの仕事についても理解を深める機会は重要

かなと思っています。

全業態が集まって行う事例発表会も、もともと組合員さんからいただいたお褒めの言葉や各事業所での良い取り組みをみんなで共有して、お互いに称え合って組織全体を元気にしていこうという思いから始まっています。

山口 仲間のすばらしい事例を称賛し合うことで、横のつながりも大切にする組織となるようにと。僕は部下、上司って意識しないようにしているというか。信頼し合って何でも話せる関係を築いていくことが一番いいんじゃないかと思っています。生協って助け合いの組織なので。



関根 近年は入職2、3年目の職員で業態をまたいだ研修をしていて、高田さんと彦部さんにも参加していただきました。自分が生協を選んだ理由やお互いの仕事内容を知っていただくことで、さらに生協全体を理解して自分たちの組織に誇りをもって働いてもらいたいという意図で研修を組んでいます。

“コープぐんまがいい”と 思える、思われる 組織を目指して

塚田 小さな子供たちを楽しんでもらうためのイベントなど、子育て世代のお客様に寄り添う取り組みを行ってはいませんが、まだまだかなって。お店としても、地域に貢献するうえでも、子育て世代のニーズに役立てていければと思います。長く利用されている年配の方には既に安心して来てもらえるのが宮子店のいいところかなと感じています。

関根 総務人事課としては、コープぐんまの制度をどんどんいいものに整備して、



働く人たちにやっぱり生協で働きたいと思ってもらえる組織にしていきたいです。あとは他社から見て「コープぐんまの制度をうちも取り入れてみよう」といった群馬県内の企業の先駆け的存在になれればいいと考えています。

高田 最近ですと能登半島地震後の事例発表会で、救援に向かった職員の方々から当時の状況を伺いました。コープぐんまは、群馬から日本中に支援を届けることを大切にしている、そこは誇れるところだと思っています。生協の「お役立ちの精神」が他の団体や企業にも広がっていくことで、今後の日本を支える力になっていくんじゃないかなと思います。

塚田 やっぱりコープがいいよねって最終的に選んでもらえるお店や組織でありたいですね。そのために誠実に組合員さんやお客さまに対応していくことを心がけています。

金田 ゆりかごから墓場までずっと寄り添っていけるような…コープぐんまは暮らしのインフラであり、心の拠りどころなのかなと。共済や食品、生活必需品のお届けはもちろんですが、困ったときになんでも相談ができる、安心できる存在でありたいと思っています。

彦部 人のためにという思いが強い組織だと感じているので、地域のみんなにとって「ここにコープぐんまがあるから安心できる」と感じられるような組織にしていきたいですね。

「人」を大切に 未来の仲間に向けた メッセージ

関根 これからAIの発展などでDX※が加速して、業務が効率化されてくると思

います。ただ、やはり生協って「人」がすごく大切だと思うんです。働く人とのつながりもそうですし、働く職員と組合員とのつながりもそう。世の中がどんなに便利になっても、そこだけは変わらずに生協の根幹として残して伝えてほしいです。

高田 今はスマホやパソコンが当たり前の時代で、資源を大事にする意識やSDGsの考え方も広がっています。そういう流れの中で、組合員さんも変わっていかないといけない状況だと思うんです。例えば、紙の利用を減らすためにスマホやパソコンからの注文を呼びかけています。実際に使ってみるとすごく便利で、「すすめてもらってよかった」と言っていただけのことであって。組合員さん一人ひとりに対して自分に何ができるのかを考えて動くことが大切だなと感じています。

金田 私からは未来の職員に。今年からお盆の週が宅配も全体もお休みになりました。組織全体がお休みする流れになったことは、すごいなあと。まだまだ生協を良くしていこうという気持ちがあるので、本当に伸びしろのある組織だと伝えたいです。

塚田 入社してから、働き方についての制度や考え方はかなり良くなってきていると感じています。将来的にさらに良くなる。意見を言いやすい環境を自分たち

でも作っていきたいですし、未来の職員さんにも意見を出してもらいたいです。災害とかパンデミックとか、今後大変なことは起きてしまうと思うんですよ。そうした状況に合わせてやり方を変えていかなきゃいけないと思うんですよ。「ともに、みんなで助け合う」という根本を大切にしながら、変えるべきところは変えて、組合員さんに寄り添っていきたいと思います。

彦部 私はやっぱり楽しく働けることが一番だと思うので、そういった環境づくりやコミュニケーションですかね。失敗したり困ったりすることもあると思いますが、なんでも話せる環境で互いに支え合える組織にしていきたいと思っています。「今日も頑張った、充実した日だった」と思える、そんな働き方が一番いいのかなと。そこを目指して一緒に頑張っていける未来の職員さんをお待ちしております。

山口 いつも新入職員の皆さんに伝えているのは、協同組合で働いていることに誇りを持ち続けてほしいということ。そして組合員さんには、声を発信し続けてほしいと伝えたいです。組合員さんの声で生協ならではの商品が生まれたり、今ある商品をもっとよくしていけたりする組織ですから。職員を通じてでも、「こえのポスト」からでも、組合員さんそれぞれが伝えやすい方法で、ぜひ意見を聞かせてほしいと思います。



※ DX…デジタルトランスフォーメーション (Digital Transformation) の略。デジタル技術によって商品やビジネス、業務、企業文化等を変革すること。

利 用者として、そして運営者として。コープぐんまを支える多くの組合員さんを代表し、深いつながりのある理事の皆さんに、これまでの組合員活動やコープぐんまへの想いを語っていただきました。

組合員 座談会



みんなそれぞれ、活動参加のきっかけ

女屋美由紀さん（以下、女屋） まずは、コープぐんまとの出会いから話しましょう。25年前に前橋に引っ越してきて、コープのお店で「一緒に宮子コープ会で活動しませんか」という掲示物を見たことがきっかけです。引っ越してきたばかりだったので、活動の中で知り合いができればと思ったんです。

滝川愁子さん（以下、滝川） 私もコープ会からです。9年前くらいに幼稚園のママ友から紅茶の学習会に誘われて。宅配は利用していましたが、そうした活動があることは全然知らなくて。そんな活動があるんだ、と思って入会しました。

新井弓佳さん（以下、新井） 私はSNSで同じ月生まれの子のママたちが集まるグループを見つけて仲間に入りました。そのうち子どもが大きくなって、遊ばせる場所を探しているとき、コープの組合員室を

借りられることがわかり、子育てグループを作ったのがきっかけです。18年くらい前のことですね。

渡邊里枝子さん（以下、渡邊） コープとの付き合いは、子どもが小さい時に住んでいたアパートで、共同購入の仲間に入れてもらったのが最初です。利用し始めて30年以上経ちます。コープ会の活動には一番下の子が幼稚園に入ったときに、ママ友から誘われて参加しました。13年くらい前ですね。夕食宅配が始まった頃で、「無料で試食できるよ」みたいな感じで。それがきっかけです。

橋爪寛子さん（以下、橋爪） 私は15年くらい前です。コープ会に入る前にはエリア（現ブロック）の組合員活動で企画に参加したり、商品委員会に参加したりしてコープに関わりを持っていました。その後コープ会を作って何年か活動に参加したのちにエリア委員になって、いちご狩りの企画などに携わりました。

大変だったことも、やりがいと喜びに

女屋 いちご狩り、懐かしいですね。私は「ピースクラブ」という子どもに平和の大切さを教える活動が一番印象に残っています。活動の中で、引率者として子どもたちを広島へ連れて行きました。一般参加者としても、長女と長野県の松代の大本営の壕と一緒に入る体験ができましたし、三女が高校生の時には一緒に沖縄戦の跡に行けました。子どもたちと面と向かって平和について話すのは、なかなかできないことじゃないですか。単なる旅行じゃなくて、普通だったらできない経験が生協に携わることによってできたことは、すごくよかったなと思います。

新井 私が一番印象に残っているのは、生産者さんとの取り組みです。10年前に新しい生産者さんと収穫体験を始めることが決まりまして。そのとき取り扱ったのは、アレッタという組合員さんたちにもあまり知られていない品目で、若い生産者が作り



女屋 美由紀さん

組合員監事1期目

➡ブロック委員4年、地域区分理事2期、全域組合員理事3期を務める。

お気に入りのコープ商品
お米育ち豚のバラ凍結



新井 弓佳さん

全域組合員理事2期目

➡ブロック委員8年、地域区分理事3期を務める。

お気に入りのコープ商品
骨取りさばの味噌煮



橋爪 寛子さん

全域組合員理事1期目

→ブロック委員8年、地域区分理事2期を務める。

お気に入りのコープ商品
フィッシュソーセージ



渡邊 里枝子さん

地域区分理事2期目
東毛ブロック

→ブロック委員5年を務める。

お気に入りのコープ商品
セフター（洗剤）
ソフター（柔軟剤）

始めたのでぜひ応援したいと、組合員さんに募集をかけました。当初、その生産者さんは組合員交流には懐疑的だったのですが、収穫を一緒にやることで、組合員さんは生産者さんの大変さを知ることができるし、生産者さんは消費者の意見を聞くことができる。お互いにとってメリットがあることだからとお願いして、毎年やり続けました。そうしたら回を重ねるごとに生産者さんもすごく協力的になってくださって。今年の収穫体験はその生産者さんの紹介で別のところに引き継いで開催することもできて。やり続けてきてよかったって思いましたね。

橋爪 やり続けることってすごく大事だと思います。私の話になるんですが、6人くらいのブロック委員の仕事量を3人で回っていた時期があって。そのときは本当に大変でしたが、自分たちが考えた企画に多くの組合員さんが参加してくれることが一番うれしかった。3人でも活動量を減らさずにできたことはよかったと思います。

渡邊 大変だったこと…。私は8年くら

い前、ブロック委員で委員長を務めたときに司会進行や次第の作成が必要になったときですね。当時はパソコンができなくて、手書きでもよかったのですが、資料をちゃんと作りたくてパソコン教室に通いました。パソコンも購入して、なんとか最低限のことはできるようになりました。今の自分の糧にもなっているので、結果としては良かったなと思います。あと印象に残っている活動は「ふれあい試食会」。今はコープぐんまフェスタとして大きなイベントになっていますが、以前はイベントをブロックごとに開催していましたよね。コープ会も一丸となってメーカーさんとのやり取りから、みんなで一からイベントをつくりあげたことはすごくいい思い出です。

滝川 私は、「ふれあい試食会」があったことは知っていましたが、運営側に回るまでは参加したことはありませんでした。コープ会では周りの友達が積極的に活動していて、料理教室や親子のバス企画、学習会など、いろいろ体験させていただきました。ブロック委員さんに声をかけていただいて委員になったものの、ちょうど

コロナ禍と一緒にタイミングだったので何の活動もできなくなってしまって。やっと企画して、募集を出して、参加者さんも来てくれたけれど、警戒レベルが上がって中止になってしまふ。そんなことばかりでした。やりたいことができなかった時期が一番つらかったなと今は思います。コロナ禍が明けて、いろいろな企画ができるようになると徐々に参加者さんも増えてきました。冬休みの親子企画で玉ねぎ染めをやったこともあります。そこで食品ロスのお話をしました。ホームページでも公開しているコープの「もったいない商品」や「もったいないレシピ」をお伝えして、お子さんたちの学びにもつなげてもらう企画でした。企画するときにはいつも考えるのが、コープの商品を食べてもらっておいしいねってだけでなく、少しでも勉強になったと思ってもらえる企画ということ。「来てよかった」と言ってもらえるのがいいなと思っています。

栗原千香恵さん（以下、栗原） 私はこの部署にきてまだ10年経っていません。それまでは組合員活動には全く携わっていませんでした。ただ、ずっと理事さんと



滝川 愁子さん

地域区分理事1期目
西毛ブロック

→ブロック委員4年を務める。

お気に入りのコープ商品
お米育ち豚のロースとんかつ



栗原 千香恵さん

職員(総合企画室)/8年目

→1992年入職。組合員活動の企画や広報活動を中心に担当
総合企画室課長。

お気に入りのコープ商品
北海道粒コーン
宅配限定ベビーチーズ



一緒にいろいろなことをつくりあげたいと思っていて、やっと叶ったのがここ最近なんです(笑)。コロナ禍の4年間は、どうやって活動を広げていかと模索しながらの活動でした。一方で、コロナ禍があったからオンライン化も進みました。それまでは「オンライン?何のこと?」みたいな状態だったのが、一步踏み出せるようになった時期ですね。ただ、コロナ後の再開時にはコツがつかめませんでした。再開後すぐのレタスの収穫体験では、感覚が鈍ったなど感じたときがありました。4年間やらなだけでこんなにだめになっちゃうんだって、すごく反省しました。

生活に寄り添ってくれる、信頼感が魅力

新井 私が感じるコープぐんまの魅力は、困った時だけじゃなくて、ふとした瞬間そばにいてくれる存在だということ。生活に寄り添ってくれて温かさがあるのがコープぐんまの魅力だと思います。

渡邊 東日本大震災のときやコロナ禍などでお買い物に行けない中、コープは本当に頼りになったと思いますよ。困ったときの助けという役割も担ってるんじゃないかなと。それから、以前、子育て中に配達に来てくださっていた人とは頻りにコミュニケーションをとっていました。「人」との付き合いができるという点も魅力ですね。

女屋 お店もあって、宅配もあって、移動店舗もあって、介護施設もあってと、生まれてから高齢になるまで、いつまでも身近に寄り添ってくれる存在がコープの魅力だと思います。ドラッグストアやスーパーもあるけれど、コープぐんまを利用する人は、安ければいいというのではなく、コープが好きでコープ商品も好きで、そんなふうに関員さんに愛されている存在だと思います。

橋爪 子育て世代やお年寄りには、絶対的に信頼されている部分があると思います。企画では、お子さん連れの参加者が多いですね。子どもがいる人が最初に参加してくれて、コープの商品の魅力をどんどん知ってくれて、そのお子さんたちが成長していく姿を続けて見られるのはうれしいことです。また、お年寄りで買い物などに困っている人が結構いるので、宅配が助かるという声は非常によく耳にします。県北など雪が降るところは配達がすごく大変なんですけど、休まずきちんと届けてくれる。配達員さんも都市部だけではなく、どこのセンターに行っても配達できるようにしているのがコープぐんまのいいところですね。

滝川 降雪がひどくても、組合員さんがいれば配達に行くわけですものね。

栗原 県境を越えない限りは、嬭恋も、草津も、みなかみも行きますよ。

橋爪 コロナのときも感謝されましたけれど、雪がひどい時はすごく感謝されますよね。飲料など重いものを玄関まで運んでもらえることはありがたいことです。

これから先、100周年を見据えて

新井 変わらないでほしいところは、やはり「組合員さんあってのコープぐんま」ってこと。逆に変わってほしいことは、もっとチャレンジしてほしいということ。もっと広げるためのチャレンジが必要だと思います。前例がないからと却下するんじゃなくて、新しいアイデアはどんどん取り入れてチャレンジしてほしいです。

滝川 今の人のニーズに沿ってやってほしいし、私たちもやっていかなきゃいけないと思います。ただ、70年続いてきた歴史とつながりは切り捨てることなく大事にしていきたい。例えば、総代さんを辞められた後もちゃんとお付き合いしていけるとか。ちゃんとつながってられるような身近な存在であってほしいなと思います。

女屋 組合員さんを大切にすることが一番だと思うんですが、一方には生産者の方がいるということを常に忘れないでほしい。普通のスーパーだと作っている人の顔が全く見えないけれども、生産者との交流会などあって、顔が見えるところは生協のいいところです。理事をしていたときに



いろんな生産現場に行かせてもらいました。例えば、シラス漁で揚がったシラスの作業。あの小さなシラスを目で見分けて、商品にならないものをピンセットみたいな道具ではじくんです。自分たちの手元に届くまでの生産者さんの苦労や思いは忘れないでいきたいなって思います。それから今、どんどんデジタル化が進んで、スーパーなどで無人でもレジが通れるような形が出てきています。そういったこともチャレンジしてもらいたい。その反面、デジタル化について行けない方もいるので、一人一人を大切にしていきたいという思いもありますね。

渡邊 私が変わらないでほしいと思うのは、やはり「人と人のつながりを大事に、いつも隣にコープ」。どこからでもいつでもだれにでも頼られるコープであり続けてほしいです。変わってほしいところは、コープって社会的貢献もたくさんしていますが、それを広くお知らせしてほしい。奨学金制度も始まりましたし、地域で頑張っている団体さんへの助成もしてますし、もちろん子育てひろばとかもありますね。もっと広報活動を強化することで、コープのよさを幅広く知っていただきたいと思います。

滝川 市町村との見守り協定とか、知られていないですよね。私も組合員活動を始める前は知りませんでした。組合員活動のいいところは、子連れでもできるところ。子どもが夏休みの間は活動を少なくするなど融通が利かせられることがいいですね。

橋爪 私は、今のまま組合員活動を重視し続けてほしい。利益だけを求めて組合員活動を縮小化されてしまうとコープぐんまらしさがなくなっちゃうので。そのため、そのための担い手をどういうふうで獲得して、成長させていけるかが今後の課題だと思っています。私たち半分ボランティアなので、そこを理解してもらうのが難しい。コープぐんま側も今後、いろいろ待遇を考えてもらわないといけないと思います。今までやってきたことを受け継いでくれる人たちが本当に必要だし、伝えていきたいと思うので。

滝川 活動の中でメーカーさんの学習会など、学ばせてもらえる機会があって、すごく視野が広がります。普通の主婦では経験できないことができるのですが、参加してもらわないと伝えられないですよ。

新井 まず子育て世代の方に担い手になっていただいて、その先も続けていただければと思いますが、退職されて時間に余裕がある方に、これからの自分探しという意味で参加していただいてもいいと思います。

滝川 子育て中の方は休日に出られないこともあるので、幅広い世代の方が各ブロックにいるといいですね。

栗原 コープぐんまの職員としては、組合員さんあつ

ての生協だと思うので、これからも組合員さんの声を形にしていくことが変わらないでいくところかなと思います。組合員活動には経費もかかりますが、事業で黒字を出して活動を継続してできるようにすることが我々の使命です。社会貢献活動などの広報もお金をかけているわりには、組合員さんにもあまり知られていないことが問題だと思っています。チャレンジしたいこととしては、それぞれの分野の商品がありますが、一番の目的は商品を知っていただくことなので、それを組合活動と連携してやっていきたいと思っています。

新井 これまでの70年間で、安心安全の商品を届けているのが生協だってわかってもらったので、これから100周年には、もっと別の「コープといえば」という言葉が出てきたらうれしいですね。今、それを考えています。とにかく「そばにいてくれるのがコープだ」みたいな、いろんな面でいつもそこにあるよねっていう存在になってほしいと願っています。



70周年のコープぐんまへ

職員・組合員を代表し、座談会に参加いただいた皆様に
直筆メッセージを頂戴しました。

祝70周年
組合員・職員とともに
100年生協へ

●専務理事／山口真司さん

これからの70年先も
期待します！
おめでとう
ございます

●組合員監事／女屋美由紀さん

祝70周年
人と人のつながりも
大切に!!
笑顔あふれるコープぐんまへ!!

●管理部総務人事課／関根俊彦さん

CO-OPぐんま
祝70周年
おめでとう
ございます

●全域組合員理事／新井弓佳さん

祝70周年!!
組合員の皆さん、地域の皆さん
そして、コープの仲間たちと
コープの力を盛り上げて
いきましょう!

●コープ宮子店／塚田彩さん

70th
Anniversary
今後のますますの発展を
心より祈ります

●全域組合員理事／橋爪寛子さん

祝70周年!!
地域とともに
もとやさしく
もと頼れる存在へ

●共済部／金田ゆかりさん

70周年
おめでとう

●地域区分理事／渡邊里枝子さん

いつも、いつまでも、
頼れる
コープへ。
祝70周年

●藤岡センター／高田太一さん

70周年
おめでとうございます!
これからも組合員さんの
笑顔とともに♡

●地域区分理事／滝川愁子さん

祝70周年
組合員さんと仲間と
ともにより良いコープ
ぐんまを目指します!!

●コープケアあいおい通所介護／彦部智子さん

70周年
おめでとう

●総合企画室／栗原千香恵さん

生協とともに

コープぐんまの70周年を記念して、2024年12月からスタートしたインタビュー企画です。コープぐんまの組合員の皆さまにお話を伺い、広報紙「ほっと」やホームページでご紹介してきました。



01

生協ととみに

Together with the CO-OP

群馬県前橋市

羽鳥とみさん

コープデリ宅配を利用している羽鳥とみさんは今年で100歳。約60年間生協を利用しています。「コープを愛しているからね。」と、言って笑った羽鳥さんとコープぐんまのつながりのお話を伺いました。

羽鳥さんは1924年生まれ。16歳の時に太平洋戦争がはじまり、19歳の時には労働力不足を補うためにつくられた女性の勤労働員組織「挺身隊^{ていしんたい}」として工場で働いたそうです。コープとの出会いは1966年。前橋市内で組合員への誘いかけをする「仲間づくり活動」の中で、コープ職員と出会いました。

人のお世話をすることが大好きな羽鳥さんは生協に加入し、「仲間づくり活動」に参加することを決めました。コープ職員から生協の成り立ちの話を聞き、グループ名を「ロッチデール班」と名付けました。生協のはじまりは1844年、イギリスのロッチデールという町で、28人の労働者が、自らの手でより良い社会を生み出そうと「ロッチデール公正開拓者組合」を設立したことがはじまりなので、そこから名前を取りました。近所の方々に声をかけ、一時は20人程に仲間が増えたこともあったそうです。

配達方法も現在とは異なっており、たまごは小分けにされておらず、人数分が箱に入って届くので、毎週仕分けが

必要でした。量りを使用して1kgに分けるのですが、卵の大きさは不揃いなので個数は同じでも1kgに満たないこともしばしば。「仕分けをするお当番さんは大変な役回りですよね。」と、懐かしそうにお話をされていました。牛乳も毎朝ビンに入って当番宅へ届き、取りに来るのを忘れてしまったお宅に羽鳥さんが届けることもあったそうです。

コープぐんまの活動以外にも、婦人会や老人会などのボランティアに参加。趣味は詩吟や書道、三味線など活動的な羽鳥さん。忙しい毎日でも宅配のご利用を続けており、コープぐんまの活動を支えてくださっています。

「戦争中は食べるものも着るものもなかったし、お金も無くてたくさん苦勞をしたけれど、今は幸せです。生きていけば人生は楽しいですよ。前向きに生きていかないともったいないですからね。」と、お話をされる羽鳥さんの笑顔はとても輝いていました。

現在ロッチデール班は3人になりましたが、羽鳥さんは毎週すべてのカタログに目を通し、ご自身で注文書に記入をされているそうです。

人生の半分以上をコープぐんまと一緒に歩んでこられた羽鳥さん。いつまでもお元気で素敵な笑顔が輝きますように。



02

生協とともに

Together with the CO-OP

群馬県大泉町

大泉コープ会の皆さん

今回は30年以上活動をしている「大泉コープ会」の皆さんにお話を伺いました。

「コープ会」はコープぐんま組合員組織の1つです。

コープ商品を試食、使用をして良さを知り、地域の方へ伝えるなど、組合員が自主的に活動することを目的としています。

大泉コープ会は水澤さん、根本さん、川村さん、細谷さん、大内さん、加藤さん、新宅さん、谷井さんの8人で活動をしています。

「現在はありませんが、当時はコープ大泉店で活動をしていました。月に一度、コープデーという店舗イベントに参加をして、店頭で焼き鳥を焼いたり、野菜を販売していました。他にも、地域のイベントに出展をして焼きそばを作ったりしたこともありましたよ。」と、お話をしてくださりました。

コープ会活動の中で、一番の思い出について伺うと「小布施の産地見学会」と、皆さん口をそろえておっしゃっていました。

コープ会では、コープ商品学習のために、産地や工場見学に行くことができます。大泉コープ会の皆さんは長野県小布施町の産地見学会を2003年から2016年まで続けたそ

うです。

「初めて小布施へ行った時は、宅配センターの職員とコープ会のメンバーで行きました。当時は職員がコープ会に参加をしていたんですよ。その後は観光バスを借りて行くようになりましたが、企画が評判となり、あっという間に定員になる人気企画になりました。長時間の移動で参加者が飽きないように、クイズや腹話術などを企画して盛り上げたり。バス見学会は10年以上続き、生産者の皆さんとは長いお付き合いになりました。対応いただいた生産者の皆さんはご苦労があったと思いますが、「大泉コープ会の皆さんには毎年来ていただいているから」と、ご親切にしてくださいました。とても楽しかったですね。」

現在も新たなメンバーを加えながら活動を続けている大泉コープ会の皆さん。これからも皆様で楽しく元気に過ごされることを願っております。



03

生協とともに

Together with the CO-OP

群馬県桐生市

須藤よし子 さん 押見栄子 さん

第 3回のインタビューは、桐生市でコープデリ宅配をご利用いただいている押見栄子さんと須藤よし子さんです。押見さんは30年以上、須藤さんは約5年間コープデリ宅配を利用されています。そんなお2人にコープデリ宅配を始められたきっかけのお話を伺いました。

押見さん「私がコープデリを始めた30年前は、現在と違って食品添加物についてあまり問題にされていない時代でした。食品の安全性にこだわる生協の考え方に共感して、コープデリを始めました。

最初は親戚と一緒にグループ利用をしていました。当時はグループでしか生協を利用することができず、今の場所へ引っ越してからは何年か休止をしていましたが、個別配達をしてくれるようになったことがきっかけで再開しました。」

押見さんは地域の活動に積極的に参加されており、コープぐんまのリーディングボランティアにも参加していました。リーディングボランティアはリーディング（目の不自由な方が生協を利用する際、カタログ内容などを音声(CD)にしてお届けするサービス）の吹き込みボランティアです。押見さんは「生協ではこんな活動もしているのかと知り、楽しみながら参加をしていました。」と、お話をしてくださいました。

須藤さんがコープデリを始めるきっかけは、押見さんが自宅へ遊びに来ていた時に、コープぐんま職員が宅配の説明に来たことでした。ご近所の押見さんの提案でグループ利用を始めたそうです。

須藤さん「私は家族の健康のため、1日の塩分摂取量を計算しながら料理を作っています。コープデリではカタログに栄養情報が記載されているので、確認をしながら購入することができます。お店で買おうとすると、1つ1つ調べるので大変ですが、コープのカタログは、ここに書いてあるというのがわかっているので安心して購入ができます。」

須藤さんが入院したとき、家族の為にコープデリの夕食宅配を利用したそうです。「夕食宅配のお弁当には塩分調整商品があり、とても助かりました。」とおっしゃっていました。現在はお買い物の大部分をコープデリで購入し、カタログに掲載されているレシピを見ながらお料理をするのが楽しいとのこと。

押見さんと須藤さんは「コープの宅配はとても助かります。2人で届いた商品について情報交換をしたりしますよ。」と、とても楽しそうにお話をしてくださいました。これからもお2人の生活に笑顔があふれますように。



04

生協ととも

Together with the CO-OP

群馬県前橋市

久保田理恵子 さん

久 保田さんが生協を始めたきっかけは、お子さんの誕生でした。近所の方に誘われて、当時住んでいた埼玉県のさいたまコープ（現コープみらい）でグループ購入を始め、群馬県に引っ越しをしてからもコープぐんまで利用を続けていらっしゃいます。

久保田さんはコープデリを中心に食材を購入し、冷凍とんかつやからあげなど、アレンジがしやすい商品を気に入って購入をしていました。献立のメインをコープ商品で考え、足りない物だけを買に行くことで、食費を節約できたそうです。「コープ商品は高いと言われますが、私は経済的に使うことができました。」と、笑顔でお話をしてくださいました。

久保田さんのお宅へ配達をしている担当者は、おすすめ商品の提案やコープ共済の相談など、久保田さんに寄り添った対応を続けてきました。

久保田さん「担当者さんには父のことも対応していただきました。近くに住んでいた父もコープ商品が好きだったので、一緒に購入をしていましたが、『お父様ご自身で注文をしてみるのはいかがですか?』とご提案をいただき、父の見守りも含めて配達をしていただきました。父も楽しくコープデリを利用していたので、親子共々お世話になりま

した。」

久保田さんは毎週担当者に会うことで温かい人柄を感じ、親身な対応は商品配達をするだけでなく、信頼できる存在であることを感じさせてくれたそうです。

久保田さんがボランティア活動の相談をしたときも、「キッズサポーター」を紹介してくれました。キッズサポーターとは組合員さんが参加する企画の時に、託児サポート活動を行う組合員活動のことです。

以前、保育士をされていた久保田さんは早速登録をし、子ども達やサポーターメンバーとたくさん交流をしたそうです。

現在は退任をされていますが、「サポーターメンバーは皆さん素敵な方ばかりで、とても楽しかったです。」と、笑顔でお話をしてくださいました。

ボランティア活動も積極的に行っていた久保田さん。今後もお変わりなく、楽しくコープのご利用を続けていただけますように。



05

生協ととも

Together with the CO-OP

群馬県大泉町

神長明美さん

神 長さんがコープデリ宅配を始めたのは2020年。きっかけは大泉町文化協会のお友達に誘われたことでした。

大泉文化協会は、舞踏や書道など16のサークルの連合会で、サークル活動のほか、芸能展示発表会や文学歴史散歩などの事業を通して、大泉町の文化芸術の発展に寄与しています。神長さんが参加しているレクリエーションダンスは、さまざまなダンスの動きを取り入れた振付が特徴。ゆったり踊ったり、激しく体を動かすポップスまで自由に踊りを選択できるので楽しく健康づくりができます。

美術や音楽が好きな神長さんは大泉町文化協会のレクリエーションダンスサークルに参加し、25年間続けています。

神長さんにコープデリのご利用についてお話を伺いました。

「お気に入り商品はコープデリで注文する岩塚製菓のしょうゆ揚げ餅です。コープデリを始める前にお友達からいただき、今は毎回購入をしています。サクッとやわらかくて一度食べたらやみつきになりました！食べきりサイズがとても気に入っています。また、身体づくりを意識して、納豆などたんぱく質を取るように心がけています。先日初めてコープの国産大豆中粒納豆を購入して食べたらとてもお

いしかったです！食品以外では、雑貨類を頻繁に購入しています。最近購入した干支の置物はとてもかわいらしくて気に入っています。CDも発売日から間もないうちに掲載されるので便利です。コープデリチケット『ライフナビ』から、川中美幸さんのコンサートにも行きました。とても楽しんで注文をしています。」

コープデリを利用することで、日常生活がより便利になるだけでなく、大切な人々とのつながりが深まっています。グループ購入をされている神長さん。グループ内にはレクリエーションダンスの先生、歌の先生もいらっしゃるようで、コープ商品の話題で度々盛り上がるそうです。おしゃべりの時間は神長さんにとってかけがえのないひと時であり、コープデリを介してその時間がより豊かになっています。

健康的で充実した日々を送られている神長さん。これからも笑顔あふれる日々を過ごされますように。



06

生協ととものに

Together with the CO-OP

群馬県渋川市

塩谷裕子 さん

塩 谷さんは今年101歳を迎えるお母さまと同居をしています。

塩谷さんはお母さまの介護に多くの時間を費やしており、外出もままならないため、食料品や日用品のほとんどをコープデリで購入されています。

「介護用品も使い心地や実用性を重視して、数々の商品を試した結果、コープデリ限定商品に巡り合いました。カタログには豊富な商品が掲載されているため、たくさんの選択肢から必要なものを選べる利便性にとっても助けられています。」とお話されました。

塩谷さんがコープデリを利用しているのは、お母さまがきっかけとのこと。

お母さまは自動車免許を持っていなかったため、車がなくても買い物ができる手段としてコープデリを利用し、40年近く家族の生活を支えてきました。

現在もお気に入りのカタログ「ぐるめぐり」でお菓子を購入するなど、自分の楽しみを見つける日々を送っていらっしゃいます。

塩谷さんのお気に入り商品は、粉末にぼしミックスと黒ごまアーモンドきな粉。健康のために毎日飲んでいるスムージーに入れているそうです。

また、塩谷さんはお母さまの長寿を見守る中、「自分に何かあった時のために、保険を見直した方がいいのでは？加入をしているコープ共済の保障で大丈夫だろうか？」と心配になりました。配達担当者に相談をしたところ、コープデリ保険センターを紹介してもらい、保険の見直しを行ったそうです。「安心できる内容の保険に加入することができたので、心に余裕を持って日々を過ごせています。」と、にこやかにお話をしてくださいました。

コープデリは塩谷さんとお母さまの生活に寄り添い、日常生活の支えとなっているそうです。これからも、塩谷さんとお母さまの暮らしが豊かで安心なものでありますように。





07

生協とともに

Together with the CO-OP

群馬県前橋市

宮田よし子 さん

宮田さんは、コープぐんまの前身の一つである「前橋市民生活協同組合」からの組合員です。前橋市民生協は1970年に設立をした、前橋市を中心とした生協です。1970年代は、食品添加物をはじめとした食の安全性や健康への意識が高まっており、主婦の間で「市民生協」が広がっていました。宮田さんも2人のお子さまに安全・安心な食品を食べさせたいという思いから、ご近所のお友達に誘われて組合員になりました。

前橋市民生協では組合員同士のコミュニケーションが活発に行われていました。宮田さんがコープ商品や生協について疑問があると、先輩組合員が「それはね、」と声をかけてくれ、また宮田さんも先輩組合員から教えてもらったことや、生協の学習会などで分かったことなどを他の組合員へ伝えました。様々な知識や経験を持つ方が集まるため意見の違いが出ることもありましたが、意見を受け止めて、組合員さんと一緒に学ぶ姿勢を大切に活動が続けました。

前橋市民生協の活動に積極的に関わる中で、宮田さんは組合員の代表である理事（現在の地域区分理事）に選ばれ、コープ昭和店を中心とした地域の組合員さんとのつながりづくりに取り組みました。地域のイベントに参加をして焼きそばを販売したり、コープ昭和店の店頭で縁日を開催す

るなど、楽しい催しでコープ昭和店を盛り上げました。どんな時も周りの組合員に声をかけ、参加者だけでなく準備を行う組合員も楽しめるように、話し合っ取り組みました。

コープ昭和店を大切にしている宮田さんの原点は、前橋市民生協時代の「コープ朝日店」の閉店でした。閉店の際に多くの組合員からの「残念」という声を聴き、宮田さんは先輩方から引き継いだ「コープ昭和店」が地域に愛される店舗になるように、活動されました。

「たくさんの組合員さん、はじめましての人にも声をかけて昭和店を盛り上げていきました。笑顔で声をかけて、笑顔で返事が返ってくると元気が出るじゃないですか。そんなコミュニケーションを心がけました。店舗は、組合員や消費者から求められなくなった時に閉店してしまいます。たくさんの声を生協に届けて、長く、たくさんの人に親しまれる店舗になってほしいと思っています。」と笑顔でお話されました。

活気あふれ人情に厚い宮田さん。これからも元気に過ごされますように。



08

生協ととも

Together with the CO-OP

群馬県中之条町

綿貫真澄 さん

コープぐんまでは、組合員の意見の反映し願いを実現するため、様々な参加の場を用意しています。その中の一つ、子育てグループ※「たんぼぼクラブ」は2005年から活動を開始し、今年で20年。毎月1〜2回、手作りおもちゃ教室や大人向けのハンドメイド教室など、イベントを不定期で開催。幼児からご年配まで幅広い年代の方が参加されています。

「たんぼぼクラブ」で活動する綿貫さんとコープぐんまとの出会いは、ミニコープ中之条店のオープンでした。生協ではお店がオープンする際に、近隣の方へ組合員登録のお誘いを行っており、綿貫さんも職場の方からのお誘いをきっかけに組合員に。結婚後ミニコープ中之条店の近くに住むようになると、コープはさらに身近な存在となりました。

お子さまが生まれ、町の子育てサークルに参加していましたが、幼稚園入園と同時に退会する必要がありました。子育てサークルのお友達と「これからも子どもたちに様々な経験をさせたい」と作ったのが「たんぼぼクラブ」でした。最初は少人数でしたが、お友達がお友達を誘い、参加人数も増えたことから中之条町のサークル登録、コープぐんまのグループ登録を行いました。活動の中で様々な出会いもあったと綿貫さんは語ります。

「2024年のコープぐんまフェスタでは、スライムづくりと平

和募金のためのバザーで出展しました。スライムの作り方は、子どもがお世話になった小学校の先生に教えていただきました。2025年5月に行った『光るどろどんご遊び』では、雨にもかかわらず約70人の方にご参加いただいて。講師の山崎さんは10年以上前からのお付き合いで、忙しい現在でも取り組みにお越しいただいています。」

綿貫さんは「たんぼぼクラブ」で活動する傍ら、コープぐんまのエリア委員（現：ブロック委員）やくらしのたすけあいの会にも参加。エリア委員やくらしのたすけあいの会では、活動の幅を広げるために様々な学習会を行っています。

「エリア委員の時に受けた『ニュース作り』の学習会で学んだ技術が、たんぼぼクラブの『わたげ通信』づくりに役立っています。自然環境や平和のこと、認知症の方への接し方など、今のくらしにも役立つ知識を学ばせてもらいました。おかげさまで、たくさん成長できたと感じています。生協あっての今の自分ですね。」

様々なことに挑戦し、パワーあふれる綿貫さん。これからも元気に過ごされますように。

※グループ：コープぐんまの組合員組織の1つです。商品、平和・ユニセフ、家計簿、生活文化、子育て・教育、環境、福祉といったくらしに関係が深いテーマを決めて、自分たちでやりたいことを考えて活動をすすめています。



09

生協とともに

Together with the CO-OP

群馬県伊勢崎市

ほべたん広場 宮子
林美知代さん、山本千恵子さん、高橋直美さん、福島京子さん

林さん「コープぐんまとの出会いは、近所の方に『コープデリの宅配をやってみない?』と声をかけられたことでした。商品購入目的で始めましたが、企画や取り組みのことを知って、サポーター登録や学習会にも参加しました。」

山本さん「私も近所の方からのお誘いで。アレルギーを持つ家族がいたので、生協の商品には助けられました。」

高橋さん「当時コープぐんまの職員だった友人に教えてもらい、利用を始めました。宅配限定商品もあるので重宝しています。」

福島さん「私は職場で利用している方から声をかけられて。職場に届けてもらっていたので、買い物の手間が省けました。」

4人が出会ったのは、コープ宮子店で開催していた「エリア商品委員会(現:スマイルコト)」。地域の組合員が商品とその利用に関わることを目的として運営され、毎月1回、コープ商品を使った調理や、メーカーの方を招いた学習会を行っていました。毎月顔を合わせる中で、自然と参加者同士の交流も生まれてきました。

参加者が増えてきた頃、4人はエリア委員(現:ブロック委員)から「コープ会※を作りませんか?」と声をかけられ、他1名の仲間と5人で「Livelyコープ会」を立ち上げました。

また、コープぐんまでは山王団地に子どもを中心とした「居場所」の立ち上げのため、運営スタッフとなる組合員を募集していま

した。4人はコープサポーター※として「ほべたん広場山王」で子ども食堂の活動を始めました。

高橋さん「調理場が狭く大変でしたが、子どもたちが集まって遊んだり勉強したり。のびのび過ごしてくれたのが嬉しかったです。」

2023年には「ほべたん広場宮子」が開設。4人は運営スタッフ・サポーターとして参加しています。

山本さん「訪れた方が楽しそうに過ごし、料理を『おいしい』と言ってもらえるとやりがいを感じます。」

林さん「名前や場所が変わった当初は人が来ないこともありましたが、今は毎月来ていただいている方も。ほべたん広場は事前予約制ですが、誰でも安心して来ていただける場です。お気軽に参加してください。」

地域の方へ「居場所」を提供する林さん、山本さん、高橋さん、福島さん。これからも皆様で楽しく元気に活動されますように。

※コープ会: 商品とその利用を中心に、組合員の暮らしと利用強化に役立つ活動を自分たちで考えて進めます。2か月に1回以上集まって活動を行います。

※コープサポーター: コープぐんまが協力をお願いする組合員活動の中で、できる活動に個人で参加して協力しています。



10

生協とともに

Together with the CO-OP

群馬県富岡市

泉部正子 さん

泉 部さんが生協に出会ったのは今から約50年前、30歳の頃でした。所属していた「新日本婦人の会」の活動を通じ「子どもたちに安全で安心な食品を食べさせたい」という強い思いから、生協の利用を考えました。

しかし、当時は泉部さんが住む富岡市には生協がなく、藤岡市の「多野藤岡消費生協」の班の一つとして登録し利用を始めました。甘楽富岡地域は活動範囲外で、配達を受けられなかったため、泉部さんが仲間と藤岡市から富岡市まで配達商品運ぶ役割を担いました。

その後、生協商品の評判が高まり、一緒に生協を利用したいという仲間が次々と増えました。泉部さんは仲間と「甘楽富岡市民生協協同組合準備会」を立ち上げ、甘楽富岡地区での生協設立を目指しました。地域の婦人団体のご協力で仲間づくりを進め、1976年6月27日に会員244名、班数40班で設立総会を迎えました。利用者増に伴い富岡市内に空き家を借りて事務所にし、アルバイトが藤岡市から事務所まで商品運ぶ体制に、それでも、事務所から各組合員の班への配送は、引き続き泉部さんが運ぶ地域もありました。

「当時は子どもが3人いて一番下は1才3カ月でした。悩みましたが、夫が『本気で生協の活動をしたいなら応援す

るよ』と背中を押してくれたので飛び込みました。大変でしたが、堀田さんをはじめ一緒に活動する仲間がいたことや、商品を届けた時の組合員さんの笑顔が嬉しくて頑張れました。子どもと一緒に商品を届けることもあり、途中で子どもがトイレに行きたくなってしまい、組合員さん宅のお手洗いを借りることもありましたよ。」

1975年多野藤岡消費生協は西部市民生協となり、活動範囲が広がることになりました。甘楽富岡地域の組合員も生協を利用できるようになり、そのまま泉部さんは生協職員になります。宅配の副センター長や営業担当、ミニコープ店長などを任された後、組合員活動部で活躍後定年退職されました。現在は一緒に働いていた堀田さんや、配達・組合員活動で知り合った方々とともに「すみれコープ会」に所属しています。「生協が大好きなので、楽しく仕事ができました。たくさんの人と出会い、たくさんを経験をさせてもらいました。好きな商品は『岩手県葛巻3.6牛乳』です。この商品は昔からコープぐんまの産直商品として扱っていて、宅配センターの仲間と見学に行ったこともあります。昔から飲んでいる、ずっと好きな牛乳です。」

コープぐんまの土台を作り、パワフルに活躍された泉部さん。これからも笑顔で過ごされますように。



11

生協ととにも

Together with the CO-OP

群馬県前橋市

堀越正子 さん

堀 越さんがコープデリの宅配を始めたのは約40年前、結婚して現在の前橋市に引っ越したばかりの頃でした。「近所の方に誘われて。その方は生協の不純物の少ない洗濯洗剤を気に入って使っていました。食品以外でも、安心安全な商品をもとめる方が多かったんです。」と振り返ります。

当時はグループ（班）配達が主流で、班長が連絡を取り合うなど、組合員同士の関わりが深かった時代です。堀越さんが特に心に残るのは、親子で参加した下仁田ミートの見学会。「自分たちで作ったウインナーを後日届けてもらえて。おいしかったです。」と笑顔を見せます。見学会や学習会には、同じ子育て世代が多く参加し、新たなつながりが生まれる場にもなっていました。生協は、堀越さんの暮らしの安心と、地域とのつながりを育む起点となっていました。

堀越さんの活動は、1997年にコープぐんまで発足した組合員組織「くらしのたすけあいの会」へと広がります。高齢や病気などで困っている地域の方を、組合員同士が相互扶助の精神で支え合う組織です。「困ったときはお互いさま」の気持ちを大切に、堀越さんも当初は賛助会員から、その後「活動会員」として参加するようになりました。「くらしのたすけあいの会」が目指すのは、「介護保険では手が届

かないところ」への対応です。発足から20年以上、取り組みは大きく変わりません。あくまで有償ボランティアとして、自分たちができる範囲で活動しています。例えば、電球・蛍光灯の交換や庭の草取り、食品の買い出しや料理など、生活に密着した様々な依頼に応じています。高齢の方だけでなく、病気や障がいのある方、子育て中の方、時には「一日手伝ってほしい」という家事代行のような依頼もありますが、「あくまで助け合い、できる範囲で」と活動しています。

「できるだけ様々な依頼に応えられるように、『くらしのたすけあいの会』では学習会や研修会を行っています。そうして依頼者の方に『助かったよ、ありがとう』と言われるととても嬉しいです。その喜びが活動の原動力です。」と語る堀越さん。コープデリを利用して家族の食卓を支え、活動を通じて地域の暮らしを支える。コープぐんまとともに歩んだ堀越さんの人生は、まさに「助け合い」の精神に満ち溢れています。

現在「くらしのたすけあいの会」は、一緒に活動を支えてくださる仲間を募集しています。「あなたのできる範囲で、誰かの役に立ちませんか」と明るい笑顔でお話される堀越さんがいつまでも元気に活動されますように。

コープぐんまの取り組み

これまでコープぐんまは、安心・安全な商品の提供とともに、環境保全や地域社会への貢献など、多岐にわたる活動を行ってきました。ここでは、その代表的な取り組みをご紹介します。

コープぐんまの取り組み

コープぐんまでは、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の実現に向けて、多様な取り組みを展開しています。地域貢献や働きやすい環境づくりなど、すべての人が「ともに」笑顔で暮らせる、よりよい未来を目指します。

食と暮らしを支え、地域社会とつながる

● たべる、たいせつ

「たべること」は「生きること」。私たちが健康に生きていくために欠かすことができない「たいせつ」な営みです。コープぐんまでは、組合員活動の中で食育を推進する学びの場として、県内 JA や生産者との交流や収穫体験を行っています。

お米づくり体験（田植え／稲刈り）

生産者にご協力いただき、2025年で15年目の取り組みとなりました。田んぼが減る中で子どもたちが伝統的な稲の手植えや鎌を使った収穫を行い、お米を身近に感じてもらうとともに生産者の苦勞を学びます。



● 地域に開かれたコミュニケーションの場 「スマイルコット」

地域のコミュニケーションの場として、誰でも立ち寄れる集いの場「スマイルコット」を開催しています。コープ商品やコープぐんまの取り組みを話のきっかけとして交流しています。コープの組合員室や公共施設など街の身近な場所で開催し、組合員でなくても地域の方が誰でも参加できる仕組みです。



● コープぐんまフェスタ

コープ商品や産直商品を取り扱う取引先が出展し、来場者と直接交流を行うことを目指して毎年一回開催しています。2025年は約5,000人にご来場いただきました。



環境や平和を学び、考える

●ネイチャークラブ（環境保全活動）

山から海まで環境全体を考える組合員が主体の環境の取り組みです。森林コース・川コース・海コースを設定し、それぞれ学習会や環境保全活動に取り組みます。



いばらきコープと協力した2025年ビーチクリーンでは総勢108名で海岸清掃を行いました。

●平和の取り組み

子どもたちが自分たちが戦争や平和を学ぶ「ピースクラブ」や日生協が取り組むピースアクションへの参加を通して、平和への願いを次世代へ継承する取り組みを進めています。



2018年から取り組んでいるピースクラブでは、子どもたちが新聞を作成し、コープデリのカタログと一緒にお届けしています。

やさしさを形に、未来の世代に寄り添う

●居場所づくりの取り組み

地域の居場所づくりとして「ほべたん広場」を県内4会場で開催しています。また主に未就学児を対象とした子育てひろば「かんがる〜む」は県内2会場で開催しています。



●くらしのたすけあいの会

「こまった時はおたがいさま！」の気持ちを大切に、普段のくらしの中で手助けを必要とする人と、役に立ちたい思いを持つ人をつなぎ、主に家事援助を有償ボランティア活動として行っています。



コープぐんまフェスタでは組合員へお知らせをすすめました。

●はがき・切手回収キャンペーン

群馬県内の組合員にご協力いただき、未使用切手・未投函はがきを中心に集め、換金した金額を寄付しています。2025年度は群馬県共同募金会(赤い羽根共同募金)に寄付しました。



●子ども交通安全教室の取り組み

2024年度から地域の保育園や幼稚園で「子ども交通安全教室」に取り組んでいます。子どもたちに横断歩道の渡り方やチャイルドシートの大切さなどを伝えています。交通安全教室を通して地域社会貢献につなげていきます。



●「みんなのよみきかせ絵本大賞」に協力しました

よみきかせ絵本部門のうち「園児さんと先生で選ぶよみきかせ絵本部門」に参加いただいた群馬県内の保育園・幼稚園51団体に対し、対象の新刊絵本20冊をお送りしました。(2025年)



●コープぐんま奨学金制度

生活が苦しい状態にある家庭のお子さんが、将来への夢をあきらめることなく社会に出られるよう後押しするため、2022年に奨学金制度を設立しました。2025年には支援する奨学生は68名になり、奨学金制度を支える「奨学金応援サポーター」は1,700名を超えました。(2025年12月現在)

※奨学金は奨学金応援サポーターからの募金によって成り立っています。

●フードドライブの取り組み

コープぐんまでは、ご家庭に眠っている食品を寄贈していただく「フードドライブ」活動に取り組んでいます。寄贈していただいた食品は、フードバンクなどを通して必要とされる方々に無償で提供されます。また、返品となったオムツを乳児園にお届けし、ご活用いただいています。

●募金の取り組み

ユニセフ募金、ふくしま復興応援募金、平和募金、奨学金応援サポーター募金に通年で取り組んでいます。また、災害等が発生した際に緊急募金に取り組んでいます。



●地域団体への支援

「地域のニーズ」と「組合員の暮らし」を協力の力で実現する社会を創っていくため、群馬県内の団体へ助成を行っています。団体の活動を通じて、組合員と地域の皆さまのより良い暮らしづくりを目指しています。

「未来つながり助成」では5～10万円の寄付を行っています。これまでにのべ212団体へ1,153万円を寄付しました。

「子ども食堂支援」では毎月1万円以内の商品購入代金補助を行っています。のべ20団体へ約370万円を支援しました。



制度を整え、働きやすさを実現する

●プラチナくるみんプラス取得

2025年、コープぐんまは仕事と子育て・不妊治療の両立や育児・介護休業制度の推進による働きやすい環境づくりが評価され、厚生労働省の「プラチナくるみんプラス」認定を取得しました。



●健康経営優良法人に認定

職員が心身ともに健康でやりがいをもって働くことを目指し、健康保持・増進の取り組みを「経営課題」として「健康経営」を推進しました。2025年度に「健康経営優良法人」に認定されました。



●群馬県いきいきGカンパニー

群馬県がワーク・ライフ・バランスの推進に先導的に取り組む企業を認証する制度。コープぐんまは2021年にゴールド認証を取得し、働きやすい職場環境づくりを進めています。



●EV車を導入

2025年10月2日にコープデリ藤岡センターにコープぐんま初となるEV車3台を導入しました。



●コープデリ宅配の 夏季一斉配達休業

2025年8月11日～15日の5日間コープデリ宅配の配達を一斉に休業しました。猛暑による疲労・熱中症から職員を守り、職員の働きやすい職場環境の実現を目指しました。

●職員向け奨学金返済支援制度

正規職員（総合職）の新卒採用者を対象に、入学金や授業料の支出の際に借り入れた「奨学金」について、コープぐんまが返済額の一部を補助する制度を定めました。

移動式店舗で、お役立ちをもっと届ける

●コープぐんまの移動店舗

お買い物にお困りの方や地域の皆さんのお役立ちのため、邑楽町、大泉町、千代田町、板倉町で移動店舗を運行しています。



データで見るコープぐんま

(2025年3月20日現在)

●コープぐんまの概況

事業高

346億6,768万円 (2025年3月20日現在)

組合員数

357,767人 (2025年3月20日現在)

出資金

63億4,179万円 (2025年3月20日現在)

役員数

常勤理事 3人 (理事長、専務理事、常務理事)
 有識者理事 7人 (内連合会1名)
 組合員理事 12人
 有識者監事 2人
 組合員監事 3人

職員数

(2025年3月20日現在)

正規職員 378人
 パート職員 471人
 アルバイト 447人

●事業内容

店舗事業 8店舗*

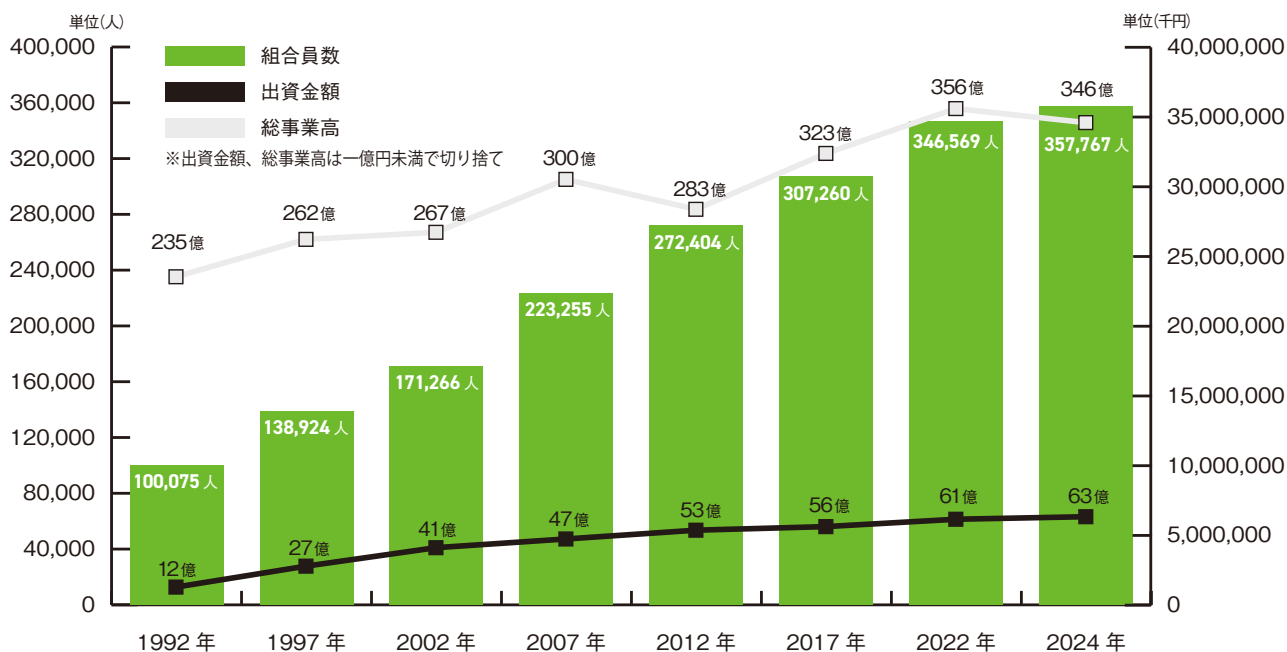
宅配事業 8センター

共済事業 コープ共済

福祉事業 居宅介護支援、訪問介護、デイサービス、サービス付き高齢者向け住宅

※2026年3月以降は7店舗

●組合員数・出資金・総事業高の推移





『ほっと』



コープぐんまの広報誌では、お料理レシピや暮らしに役立つ特集をはじめ、商品情報やコープからのお知らせなどを掲載し、組合員の皆さまの暮らしに寄り添った情報発信を行ってきました。

群馬県民生協時代に発行していた広報紙『ふれあいひろば』から、組合員の皆さまへお役立ち情報を届けるため、広報紙の発行を継続してきました。広報紙は、時代や社会の変化、組合員のニーズに応じて内容や形を変えながらリニューアルを重ね、現在の『ほっと』へとつながっています。

『ほっと』創刊当初は、「ほっと編集委員会」に所属する組合員の皆さまが主体となり、「るっくwalk」をはじめとした企画の取材・編集を行っていました。現在は、コープデリ連合会とコープぐんま職員が共同で制作し、広報誌づくりを続けています。



『ふれあいひろば』



『からっ風』

コープぐんまを支える人々

県内各地の事業所・本部で働く職員、そして組合員の皆さま。コープぐんまは、たくさんの方々の協力によって成り立っています。70周年の節目に、71年目に向かっていくコープぐんまを支える方々の集合写真をまとめました。

役員紹介

常勤理事



山口 真司 大貫 晴雄 杉本 真佐己

有識者理事



(左から)
藤井 啓太郎 齋藤 匠 小此木 久美子 中道 美代子 園田 哲男
成田 章二 (連合会理事)
(右上)
原澤 裕

有識者・組合員監事



(左から) 尾藤 篤 木樽 千恵子 山端 佐代子 女屋 美由紀 長岡 伸明

組合員理事



(後列左から)
松島 典子 工藤 洋子 滝川 愁子 田中 弥生 野口 美里 黒岩 安希
角田 みち江
(前列左から)
渡邊 里枝子 野原 多香子 新井 弓佳 宮口 ゆきみ 橋爪 寛子

桐生市

コープ東久方店



コープ東久方店は、桐生市東久方町に誕生して50年以上、長年地域に愛されてきたお店です。お客様との対話を重視し、職員同士も積極的にコミュニケーションを交わすことで、店内はいつも元気で明るい雰囲気に包まれています。地域の組合員さんのくらしに役立ち、必要とされるお店であり続けるため、51名の職員が日々の積み重ねを大切にしています。

INFORMATION.

〒376-0053 桐生市東久方町2-2-20
Tel. 0277-47-2980

桐生織で栄え、繊維産業に関連する伝統や文化を随所に感じられる桐生市。東久方店の近くには、群馬大学の桐生キャンパスやスポーツで有名な桐生第一高校があり、活気ついた地域です。

コープ新井店



豊富なコープ商品に加え、産地直送の地場野菜とテナント「下仁田ミート」が、コープ新井店の魅力。さらに、子育て世代に積極的に利用していただけるようキッズコーナーを設置し、毎週土曜日には「モグモグタイム」を実施しています。供給計画クリア、新規組合員年間計画達成、コープファンを増やすことの3つを軸に、64名のスタッフが業務に取り組み、コープ商品の魅力を届けています。

INFORMATION.

〒373-0852 太田市新井町533-2
Tel. 0276-46-0570

ものづくりの街として発展してきた太田市。新井店の南西には、世界的自動車メーカーSUBARUの主要生産拠点である矢島工場があり、年間40万台以上が国内外へと出荷されていきます。

コープ中野店



コープ中野店は2026年3月20日、48年の歴史に幕を閉じました。`仕事は楽しく!、をモットーに、個性豊かなスタッフが知恵や意見を出し合い、楽しんで仕事をしている姿が自慢の、笑顔が絶えない店内でした。お年寄りが多い地域でもあるため、積極的なお声がけで困りごとにも耳を傾けてきました。閉店に際し9割以上のスタッフが最後まで残って活躍。みんなコープ中野店が大好きです。

INFORMATION.

〒370-0603 邑楽郡邑楽町大字中野4435
Tel. 0276-88-2929

中野店のある邑楽町は、利根川と渡良瀬川に挟まれた、自然環境に恵まれた地域です。町の東側には多々良沼があり、毎年冬には越冬のため、白鳥達が飛来することで知られています。

コープ昭和店





毎日のお買い物にちょうどよい300坪タイプのお店です。レジを中心とした接客対応で地域一番を目指しています。ベテランから新人まで和気あいあいとした温かい雰囲気のお店で、お客様の中には毎日来店される方も多くいらっしゃいます。地域の皆さまの食卓へお役立ちをお届けできるように、ご利用いただくお客様の声を活かした地域密着のお店作りに95名のメンバーが取り組んでいます。

INFORMATION.

〒371-0034 前橋市昭和町3-30-9
Tel. 027-233-4116

前橋市は群馬県の中南部、東京から100kmの地点に位置しており、赤城山や利根川などの自然と市街地が共存する地域。店舗のある昭和町は、西側を広瀬川が流れ、町の北半分には群馬大学昭和キャンパスがあります。

コープ宮子店





1996年にオープンしたコープ宮子店は、2026年に30周年を迎える地域に根ざしたお店です。経験豊富なベテランリーダーが多く、各部門ともやる気にあふれたメンバーが集まっています。少量から大パックまで豊富な品揃えで、ハレの日などのイベント向けの好適品のおすすめに力を入れています。親切な応対と、買いやすく選びやすい売場づくりを心がけ、96名の職員が活躍しています。

INFORMATION.

〒372-0801 伊勢崎市宮子町3523-1
Tel. 0270-21-1700

群馬県南部に位置する伊勢崎市は、幹線道路網の利便性の高さから、商工業が盛んに行われています。宮子店周辺は県道に沿って主要な商業施設が立ち並び、市内でも有数の商業地域です。

高崎市

コープ寺尾店





2003年オープン以来、2014年、2024年の二度のリニューアルを経た創業24年目の店舗です。1点1円でも供給につなげることや、加入・予約・共済計画の必達に力を入れています。ベテランが多く在籍しており、経験の積み重ねを活かした創意工夫を行っています。110名のメンバーが各部門チーフを中心に連携し、組合員さんに寄り添った対応を店舗全体で心がけ、地域貢献に努めています。

INFORMATION.

〒370-0865 高崎市寺尾町552-1
Tel. 027-310-7788

群馬県内最大の人口を有し、高崎駅を中心に発達した交通網を誇る高崎市。鉄道・道路に加え、文化施設や商業施設も充実している街です。寺尾店は観音山に近く、自然と静かな住宅地が広がっています。

コープみさと店





108名のスタッフが支える“大きな売場”で“豊富な品揃え”、“鮮度あふれる”コープみさと店。コープぐんま初の600坪タイプの大型店舗で、16年ぶりの新規出店として、2022年5月27日にオープンしました。目標は地域一番の信頼店。健康チャレンジスタンプラリーや学生向けに組合員室の解放（学習の場）、ハンドメイド活動など、さまざまな取り組みを実施し、地域のお役に立てるスーパーを目指しています。

INFORMATION.

〒370-3104 高崎市箕郷町上芝501-1
Tel. 027-395-4692

高崎市箕郷町と言えば、東日本を代表する梅の産地・箕郷梅林。開花時期には約10万本の満開の梅を見るために多くの観光客が訪れます。国史跡の箕郷城跡など、自然と歴史が調和した地域です。

コープ藤岡店





各部門に所属する職員128名それぞれがスキル向上を目指すコープ藤岡店。店内には採れたての野菜や活きのいい魚介、上質な霜降り肉、さらにコープデリアオリジナル生地の焼きたてパンや、併設キッチンで作るお弁当など、こだわりの品が勢ぞろいです。店内を巡回しお客様へ「いらっしゃいませ」をお届けするウェルカムタイムをはじめ、地域に愛されるコープ藤岡店であり続けるための取り組みも行っています。

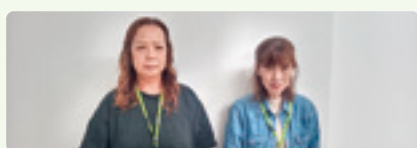
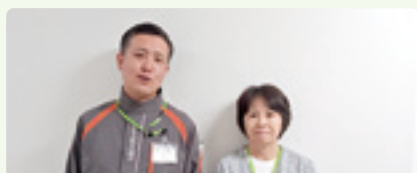
INFORMATION.

〒375-0024 藤岡市藤岡2390-1
Tel. 0274-24-5500

藤岡市は、群馬県南西部に位置するのどかな地域。コープ藤岡店の近くには、全長約350mの巨大な藤棚を有する「ふじの咲く丘」があり、藤岡ふじまつりには毎年多くの人を訪れます。

桐生市

桐生センター



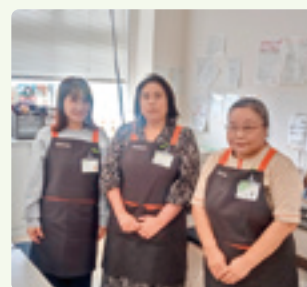
桐生市・みどり市・太田藪塚・伊勢崎市を配達エリアとし、72名の職員が活躍中です。生協で働くことに誇りが持てる職場作り、組合員さんと「質の高いコミュニケーションを取ることが出来る窓口」としての役割を担える配達担当者の育成を目指しています。安全・安心運転を最優先に、人身事故防止を目的とした「交差点での安全確認徹底」、物損事故防止のための「配達先周辺での安全確認」に取り組んでいます。

INFORMATION.

〒376-8523 桐生市相生町1-111
Tel. 0120-502-234

桐生市相生町は、町内に6つの鉄道駅を持つアクセスの良いエリアです。県指定天然記念物である「相生のマツ」は、相生村誕生時にこのマツにちなんで共存共栄を願ったとして、地名の由来となっています。

太田センター



太田市・館林市・邑楽郡を配達地域とする太田センター。安心安全な商品を実際に組合員へ届けることを職員一同85名が心がけ、業務にあたるための学習や意思統一を行っています。年代性別問わず仲が良く、皆が助け合っているチームです。安全運転、感染対策の徹底とともにワークライフバランスを意識し、職員が働き続けたいと思えるよりよい職場環境づくりを目指しています。

INFORMATION.

〒370-0603 邑楽郡邑楽町大字中野3417
Tel. 0120-502-234

邑楽町役場庁舎北側にある、シンボルタワー未来MiRAi。空気が澄んだ冬場にはスカイツリーが見える展望室を有しています。コープの理念のように、人々の「くらしと未来」を豊かにする象徴的存在です。

前橋市

前橋センター





前橋市・伊勢崎市の一部、桐生市の一部にコープ商品のお届けをしています。125名のスタッフで業務にあたり、若いメンバーが多い事業所ですが、ベテラン・若手・女性問わず活躍できる職場です。単なる配達員にとどまらず、組合員の生活環境を把握し変化に気づくことを意識。組合員や地域の方々のくらしに貢献できるよう取り組んでいます。

INFORMATION.

〒371-0132 前橋市五代町984-1
Tel. 0120-502-234

関東の中でも古墳が多い群馬県。前橋市にも大室古墳群をはじめ、多くの古墳が存在しています。前橋センターの近くには、市の指定史跡である前方後円墳「五代大日塚古墳」が残されています。

澁川市

北部センター



澁川市・吉岡町・榛東村・吾妻郡に配達を行っており、8センターの中で最も歴史あるセンターです。コミュニケーションが活発で、幹部も職員の声を大切にする笑顔あふれる職場です。「人を大切にする、役割を全うすること」を職員61名全員が実行できる事業所を目指し、全てにおいて最優先となる安全運転に関する指導・情報共有、組合員さんへの対応品質向上に力を入れています。

INFORMATION.

〒377-0027 澁川市金井450-1
Tel. 0120-502-234

北部センターは、へそ祭りで有名な日本のほぼ中央部に位置する澁川市にあります。名湯・伊香保温泉やアルテナードと呼ばれる美術館やアミューズメント施設が立ち並び、自然と観光資源が豊富な街です。

沼田センター



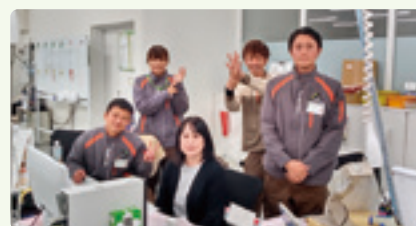
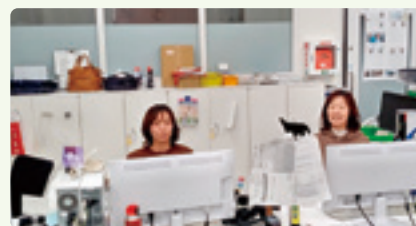
沼田市・みなかみ町・昭和村・片品村を配達地域とするセンターで、スタッフ数は46名。会員生協内で一番規模の小さい少数精鋭の事業所です。職員をひとことで表すなら「一生懸命」。明るく風通しが良い職場で、「働く人の未来をちゃんと考える」ことを事業所全体で共有しています。夏の暑さは他とほぼ変わらず、冬はどこよりも寒く、春から秋にかけての草刈りと、冬の除雪作業が名物です。

INFORMATION.

〒378-0061 沼田市岡谷町698-1
Tel. 0120-502-234

群馬県北部に位置する沼田市は、かつて真田氏の領地であった痕跡が市内各所に点在する歴史ある地域。沼田センター周辺には、フルーツ農園が多く、自然の恵みを堪能するアクティビティも充実しています。

藤岡センター



藤岡市・高崎市の一部・佐波郡玉村町・多野郡神流町・多野郡上野村と幅広い地域に商品をお届けしています。職員78名が在籍しており、ベテラン職員、若手職員、内部、委託ともに分け隔てなく協力し合える、明るく活気のある事業所です。組合員さんへのお役立ちと、地域社会への貢献に向け、働く一人ひとりが自分の仕事に責任を持って取り組んでいます。

INFORMATION.

〒375-0017 藤岡市篠塚485-7
Tel. 0120-502-234

上信越自動車道の始点にあり、群馬の玄関口として高速交通網が充実している藤岡市。藤岡センターでは、配達の基盤となる道路網を活用し、交通の要衝・藤岡市から効率的にコープ商品の配達を行っています。

富岡センター



富岡市・安中市・松井田町・下仁田町・甘楽町の5地域を担当し、54名が活躍しているセンターです。地域や組合員の声を大切にし、組合員ファーストで業務に取り組んでいます。組合員さんのくらしに寄り添い、地域の方々から認められ、社会貢献できるセンターを目指して、職員同士が協力し合いながら責任を持って業務にあたっています。

INFORMATION.

〒370-2454 富岡市田島223-1
Tel. 0120-502-234

世界遺産・富岡製糸場で知られる富岡市は、日本三奇勝に数えられる妙義山がそびえ、雄大な自然を感じられる地域です。富岡センターのある田島地区も山々に囲まれ、自然豊かな景色が広がっています。

高崎センター





2010年に現在の八幡工業団地へ移転し、今年で15年目を迎える事業所です。高崎市のウイークリー宅配、高崎市・藤岡市・富岡市・安中市のデイリー宅配を担当し、組合員に寄り添った行動と思いやり配達を大切に、地域の皆さんへのお役立ちを第一に取り組んでいます。約90名のスタッフが在籍しており、ベテラン・中堅・新人と年代のバランスが良く、女性も多く活躍している職場です。

INFORMATION.

〒370-0884 高崎市八幡町397-2
Tel. 0120-502-234

高崎センターにほど近い群馬八幡駅は、高崎だるまで有名な少林山達磨寺の最寄り駅です。駅舎ガラスの装飾を地元の小中学生がデザインするなど、町民からも愛され、大事にされています。

福祉事業部



居宅介護支援、訪問介護、通所介護、サービス付き高齢者向け住宅を通じて、利用者の方が住み慣れた地域で最後まで自分らしく安心して暮らすことができるよう、51名の職員が一体となって支援を行っています。利用者一人ひとりの価値観を大切に、本人・ご家族と一緒に進めるケアと、チーム全体で自立支援につながる「生協10の基本ケア」の実践に力を入れています。

INFORMATION.

〒376-8523 桐生市相生町1-113-1
Tel. 0277-88-7713

共済部



明日の暮らし、そまえあう
CO-OP 共済

コープぐんまの全店舗・全宅配センターに配置された共済推進スタッフが、保障という名のコープ商品である「コープ共済」をご案内し、34名の職員で県内に「たすけあいの輪」を広げています。2024年度には、21,024名の組合員へ1,263,129千円の給付を行いました。1人でも多くの方から「ありがとう」の声がいただけるよう、組合員に寄り添った保障提案・推進活動を行っています。

INFORMATION.

〒376-8523 桐生市相生町1-111
Tel. 0277-52-9680

本部

宅配事業部



店舗事業部



総合企画室・監事会



開発室



管理部



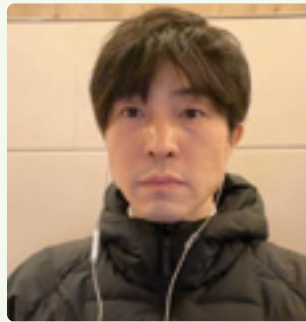
コープぐんまの本部は6部署で構成されており、宅配事業部と店舗事業部は各業態の運営支援、管理部は経理・人事を担い、開発室は土地建物の管理や新規出店の検討を行います。また、組合員活動を推進する総合企画室、監査業務を担当する監事会事務局が置かれています。総勢54名の本部職員が力を合わせ、組合員のくらしに貢献し、地域に必要とされる存在であり続けられるよう、日々取り組んでいます。

INFORMATION.

〒376-8523 桐生市相生町1-111
Tel. 0277-52-7711

コープぐんまの本部は、前身である群馬県民生協の本部があった桐生市に置かれています。本部のある桐生市相生町は、大規模工場が立地する工業地でありながら、日用品を供給する店舗やサービス施設が集まる商住複合地です。

出向中の皆さま



ブロック委員会

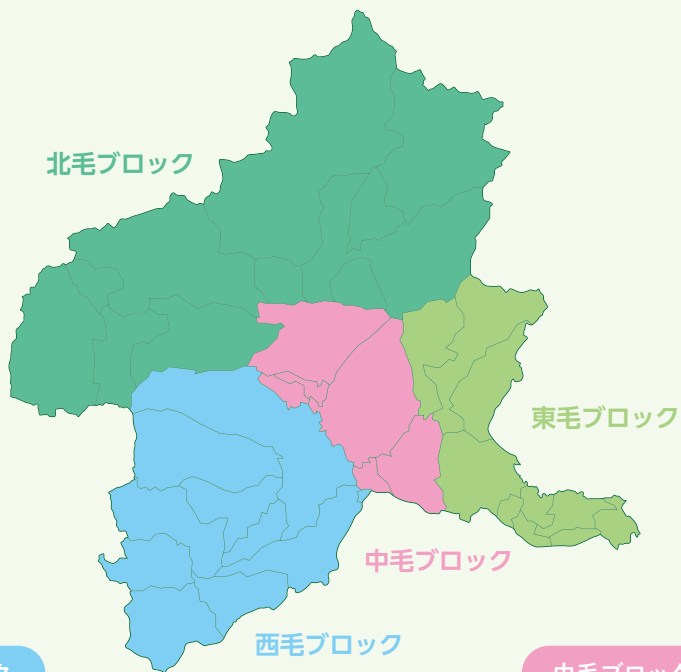
北毛ブロック



東毛ブロック



北毛ブロック



東毛ブロック

中毛ブロック

西毛ブロック

西毛ブロック



中毛ブロック



これまでの 組合員活動



2024年12月、コープぐんま70周年記念誌の制作がスタートしました。

制作の中心となったのは、組合員の皆さまへのインタビューです。お一人おひとりが積み重ねてこられた歩みの中に、コープぐんまがその一部として存在していることを伺い、何よりも嬉しく感じました。

インタビューを重ねる中で、改めてコープぐんまの歴史の深さと、取り組みの広さを実感いたしました。1956年の創立から70年、時代は変わっても「組合員のくらしを支える」という想いは、今日まで大切に受け継がれています。宅配や店舗、共済、福祉といった事業、そして生産者交流、子育て支援、環境・平和・防災活動、居場所づくりなど、多岐にわたる活動の一つひとつに、組合員と職員による協同の歴史が刻まれています。

また、職員や組合員理事による座談会では、それぞれの立場から語られる熱い想いに触れ、コープぐんまの未来への希望を強く感じることができました。

本誌が、これまでの歩みを振り返り、これからを考えるきっかけとなれば幸いです。80周年、100周年へと続く未来に向けて、組合員の皆さまとともに新たな一歩を踏み出していきたいと考えております。

最後になりましたが、インタビューにご協力いただいた組合員の皆さま、座談会にご参加いただいた職員・組合員理事の皆さま、そして貴重な資料や写真をご提供いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。この大きな節目の年に記念誌制作に携われたことを、大変光栄に存じます。

この記念誌を手にとってくださった皆さまに、私たちの想いが少しでも伝われば幸いです。

2026年3月

コープぐんま70周年記念誌タスク一同

編集後記

コープぐんま 70 周年記念誌

発刊日	2026年3月吉日
発行	生活協同組合コープぐんま 〒376-8523 群馬県桐生市相生町1-111 TEL: 0277-52-7711 https://gunma.coopnet.or.jp/
企画・編集	生活協同組合コープぐんま 総合企画室
印刷	朝日印刷工業株式会社

co-op

コープぐんま

「ともに」の力で、笑顔の明日を

